

1. アーカイブ archive

「外来語」言い換え提案（第2回）

アーカイブ ★☆☆☆ 全体
★☆☆☆ 60歳以上

言い換え語 保存記録 記録保存館

用例 古いものもアーカイブとして残し、情報として蓄積していくべき。
委員会では資料の保存と活用の両面から、京都でどのようなアーカイブが最適かを来春をめどに決める。

意味説明 個人や組織が作成した記録や資料を、組織的に収集し保存したもの。また、その施設や機関。

手引き

- ・ものを指す場合、単に「記録」「資料」と言い換える方が分かりやすい場合もある。歴史資料の場合は「史料」と言い換えることもできる。
- ・施設や機関を指す場合、国や自治体が公文書を保存・管理するものは「公文書館」、企業などが文書を保存・管理するものは「文書館」と言い換えることが適切になる。歴史資料の場合は「史料館」と言い換えることもできる。
- ・一般には、「アーカイブ」の語形が多く用いられるが、専門語としては「アーカイブズ」の語形が用いられることもある。
- ・「ライブラリー」[⇒159]が、図書をはじめとする資料を収集し閲覧に供するためのものであるのに対して、「アーカイブ」は、記録や資料を記録媒体にかかわらず長期に保存するためのもの。対象物や目的に応じて、言い換え語を工夫したい。
- ・公的な機関が、記録や資料、施設の名称に「アーカイブ」を用いる場合は、説明を付与するなどの配慮が必要である。

その他の言い換え語例 記録 資料 史料 公文書館 文書館 資料館 史料館

複合語例 デジタルアーカイブ = 保存電子資料 電子資料館
フィルムアーカイブ = 保存映画資料 映画資料館

【調査データ】

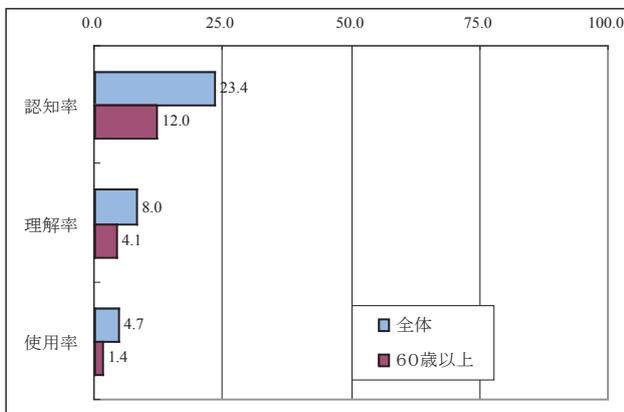


図1 定着度（全体・60歳以上）%

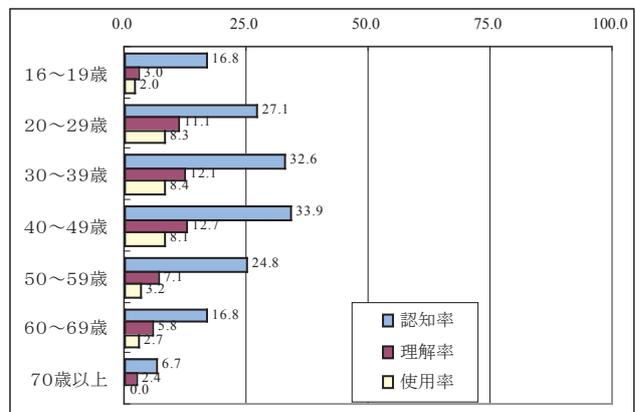


図2 定着度（年齢層別）%

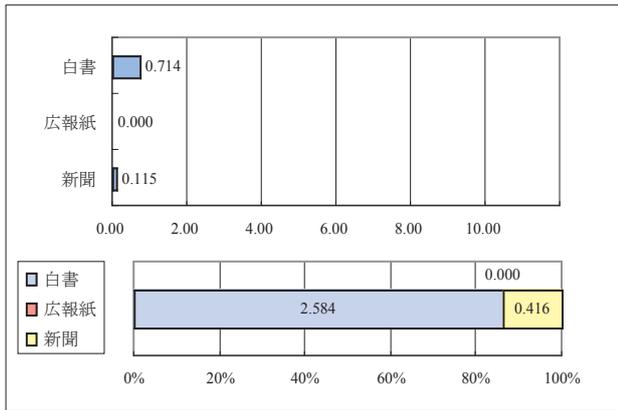


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

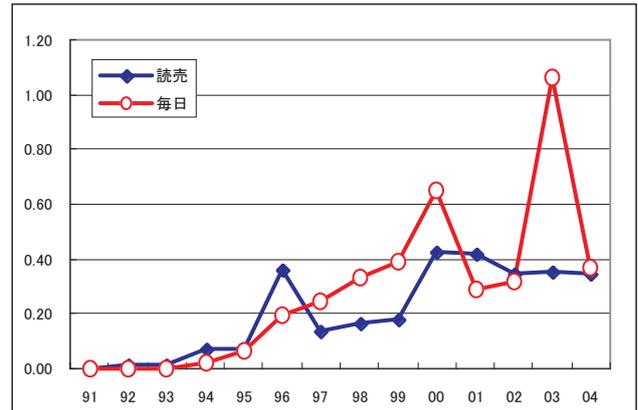


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞14年間に於ける頻度推移は、全体として増加の方向にある。毎日新聞2003年の突出は、NHKの番組名「NHKアーカイブス」が頻出することによる。

【背景事情】

- 1990年代後半に、情報通信技術の進展により文化遺産などを電子的に保存し、閲覧に供する事業が盛んになり、そうして保存された資料や場所を「デジタルアーカイブ」という語で表すようになった。「アーカイブ」単独で使われた例にも、「デジタルアーカイブ」のことを指すものが多い。公共媒体に現れる「アーカイブ」は、この系列のものである。
- NHKが2000年から放送を開始したテレビ番組「NHKアーカイブス」も、「アーカイブ」の普及に影響を与えたと考えられる。なお、「アーカイブス」という語形は、NHKが作ったものである。
- 英語ではarchivesと複数形で用いるのが一般的で、日本でも文書管理学、図書館学などの専門領域では、「アーカイブズ」の語が古くから使われてきた。「アーカイブズ」は、専門用語であり、公共媒体にはほとんど用いられない。なお、この場合の保存する場所を表す場合には、訳語「公文書館」「文書館」「史料館」などが定着している。
- コンピューターの専門用語で、多数のデータファイルを一箇所にまとめたものを、「アーカイブ」という場合がある。この意味では、公共媒体にはほとんど用いられていない。

【言い換えの論点】

- 「公文書館」「文書館」「史料館」などの訳語が定着しているarchivesの本来の意味を生かしつつ、新たに生じた「デジタルアーカイブ」の意味にも対応できる言い換え語が望ましい。両者に通じる基本的な意味である、「保存」された「記録」、あるいは「記録」を「保存」する「館」(場所)を表す、「保存記録」「記録保存館」を、[言い換え語]とした。具体的に指し示す物や場所は様々であるため、それぞれに対応した言い換え語を、[その他の言い換え語例]に示した。

→参照 ライブラリー

2. アイデンティティー identity

「外来語」言い換え提案（第2回）

	全体	60歳以上
アイデンティティー	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	独自性	自己認識
用例	アジア社会の文化や歴史を、政治、経済、法律を、その <u>アイデンティティー</u> を尊重しつつ真摯な態度で学ぼうとする姿勢がうかがわれる。	
	青少年の <u>アイデンティティー</u> の喪失による思いもかけぬ事件の数々や	
意味説明	他者とは違う独自の性質。また、自分を他者とは違うものとする明確な意識。	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変わらない確かな自分を意識している場合は、やや難しい言い方であるが、心理学の専門語である「自己同一性」を用いることもできる。 ・ 自分が所属する社会などを意識している場合は、「帰属意識」ということができる。 ・ 正確な概念を伝えたい場合は、説明を付与するのが望ましい。 	
その他の言い換え語例	自己同一性 帰属意識	
複合語例	アイデンティティークライシス = 自己認識の危機 ナショナルアイデンティティー = 国家像 国家帰属感 コーポレートアイデンティティー = 企業イメージの統一	

【調査データ】

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。新聞への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、ほぼ横ばいである。2000年代以後は、ゆるやかな減少傾向にあることも読み取れる。

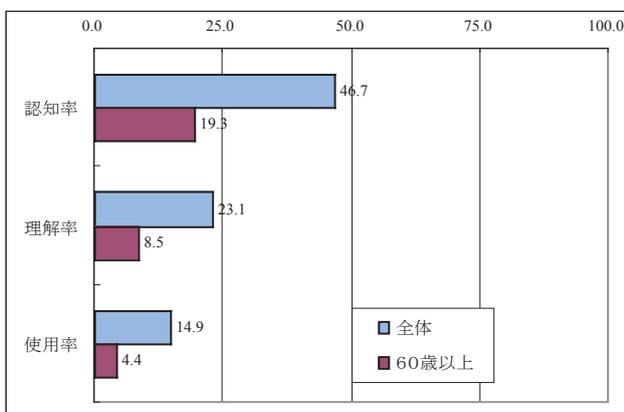


図1 定着度（全体・60歳以上）%

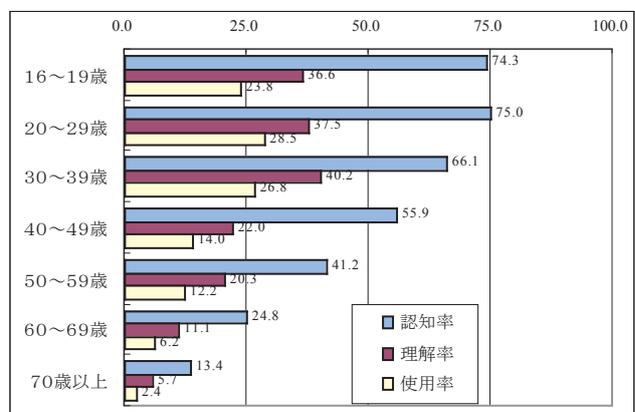


図2 定着度（年齢層別）%

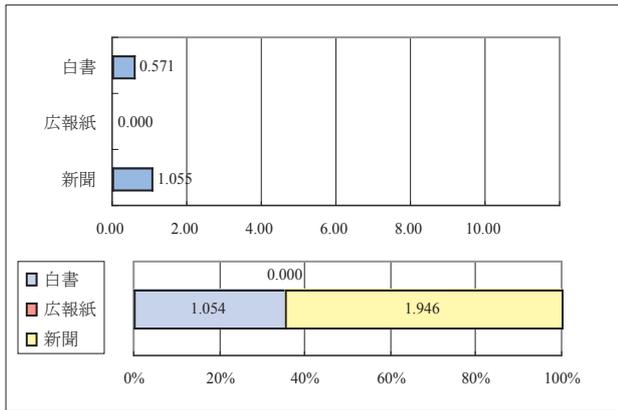


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

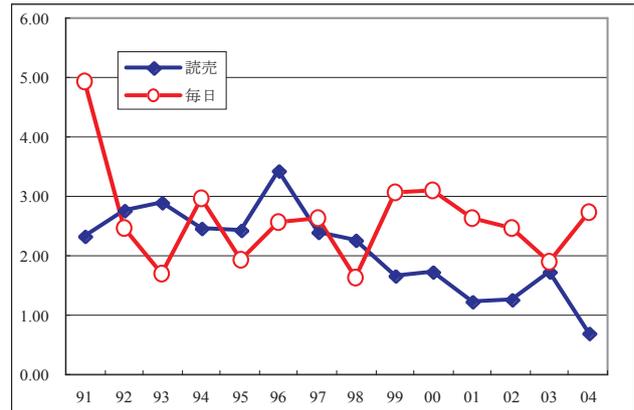


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

- identityは心理学の専門用語として日本に取り入れられ、「自己同一性」という訳語も当てられたが、日本語の中にいまだなじんでいない概念であり、分かりやすく言い換えるのは容易でない。
- 公共媒体における用例を観察すると、「アイデンティティー」の用法は、(1)ほかとは違う、そのもの独自に備わっている性質を言う用法と、(2)自分の存在や自分の性質を明確に意識することを言う用法の、二つになる。
- この二つの用法に当たる端的な言い換え語としては、(1)独自性、(2)自己認識、が分かりやすいと考えた。それぞれの用法を、別の側面から照らし出す言い換え語として、(1)自己同一性、(2)帰属意識が最適になる文脈もあるので、これらを[その他の言い換え語例]に掲げた。

3. アイドリングストップ 和製語

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
アイドリングストップ	★★★★☆	★★☆☆☆
言い換え語	停車時エンジン停止	
用例	本庁舎の出入り口などに「 <u>アイドリングストップ</u> 」を呼びかける看板を掲示したり	
意味説明	駐停車の間、車のエンジンを止めること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気汚染や騒音発生を回避し、地球温暖化を防ぐための取組として、1990年代後半から、環境庁(現：環境省)や地方自治体などによって提唱され始め、徐々に浸透してきている。 ・ 定着に向かっている語だと思われ、「アイドリングストップ」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、車を運転しない人には「アイドリング」は分かりにくく、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。 ・ 和製語 	

【調査データ】

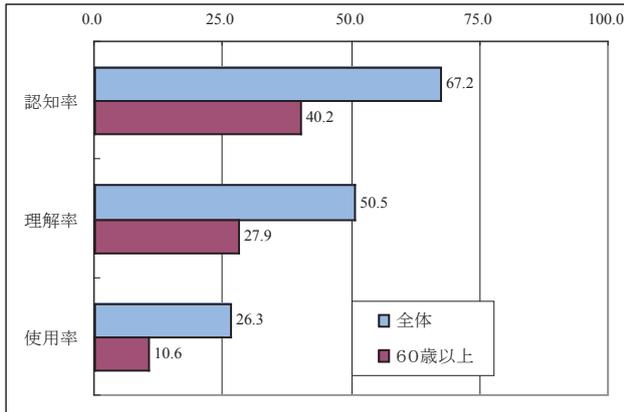


図1 定着度（全体・60歳以上）%

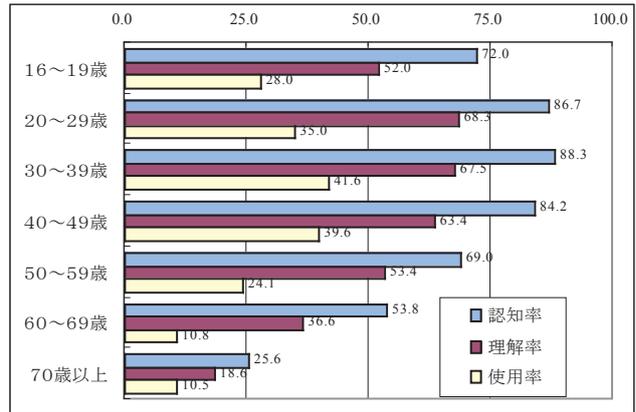


図2 定着度（年齢層別）%

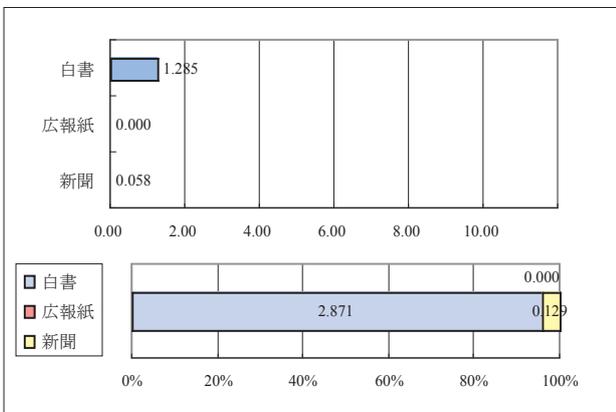


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

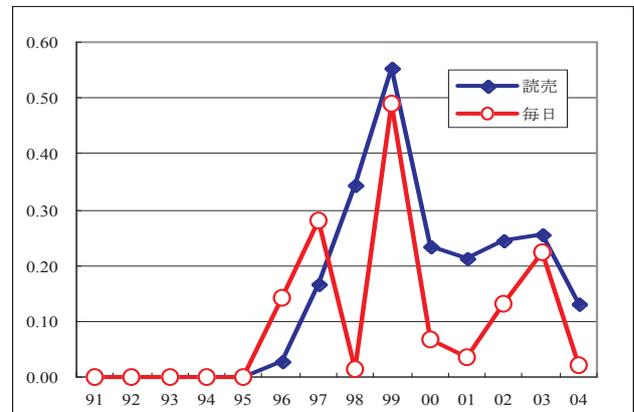


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移の調査によると、1996年から使われ始め、その後急増し、2000年代になってやや減少した後、使われ続けていることが分かる。

【背景事情】

- 新聞の頻度が、1996年に急増するのは、この年に本格化した「アイドリングストップ運動」によるものである。環境庁が、この年の「環境月間」（6月）、「大気汚染防止推進月間」（12月）に提唱し、京都府や兵庫県などが条例を設けた。政府や自治体の推奨もあって、地域や企業の取組が徐々に盛んになった。
- 定着度は男女差が大きく、男性の理解率が66.4%であるのに対して女性の理解率は39.3%にとどまる。これは、車を運転する人とならない人との間で、理解率の落差が大きいことによるものと考えられる。

【言い換えの論点】

- 環境保全を目的とするキャッチフレーズの一つとして、普及と定着が一定程度まで進んできている。環境用語として、車を運転しない人の理解も深まるとよいと考えられるため、分かりやすい言い換えや説明などは、必要であろう。
- 言い換え語「停車時エンジン停止」は、説明的な言い換え表現として提案したものである。例えば、アイドリングストップの機能を備えたバスの車中に、「アイドリングストップ車 停車時にエンジンが止まります。大気汚染や地球温暖化の防止に役立っています」などと説明があれば、言葉の意味が実質化して考え方が普及するのに、役立つのではないかと。

4. アウトソーシング out sourcing

「外来語」言い換え提案（第1回）

アウトソーシング	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	外部委託	
用例	少人数の人材派遣から、業務の外部委託まで引き受けることを可能にした。	
意味説明	業務の一部を外部に委託すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営において、事業の中核的な部分に資源を集中させ、周辺的な部分を外部に委託しようという考え方が、1990年代後半から広まり始めた。「アウトソーシング」という語もそのころから一般によく使われるようになった。 ・意味の厳密さを求めないときや、日常的な場面などでは、「外注」の方が分かりやすい場合もある。 ・材料や部品を外部から調達する意味で用いられることがあるが、その場合は「外部調達」と言い換えることができる。 	
その他の言い換え語例	外注 外部調達	

【調査データ】

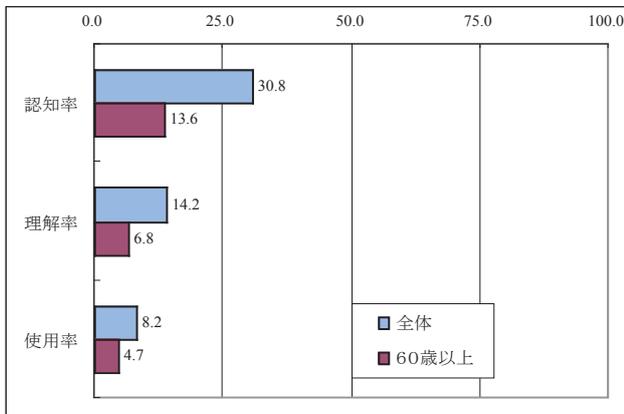


図1 定着度（全体・60歳以上）%

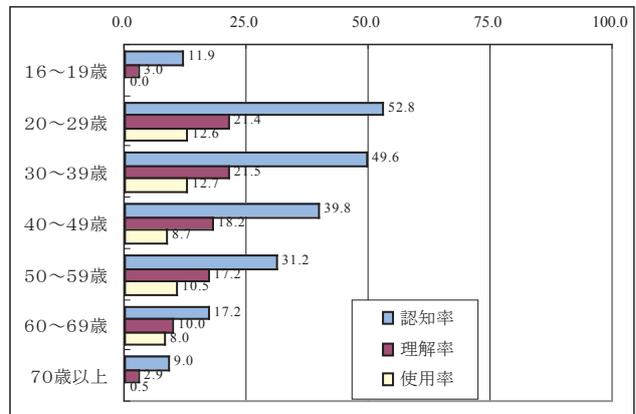


図2 定着度（年齢層別）%

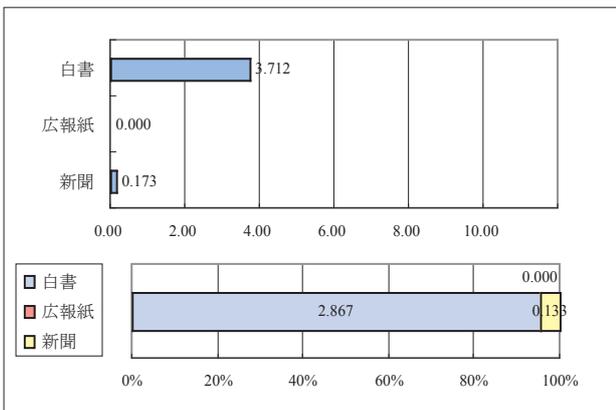


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

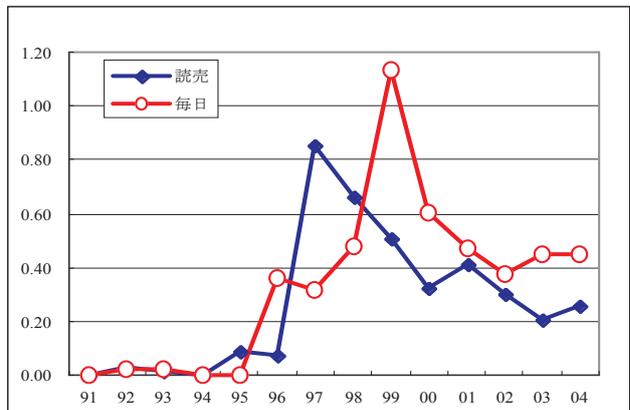


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がきわめて高い
- 新聞の頻度推移によれば、1996～1997年頃に登場し一気に増加し、2000年代に減少し、安定する。

【背景事情】

- 1996年頃から、アメリカの企業経営の在り方を取り入れ、事業の周辺的な部分を外部に委託しようとする考え方が急速に広まった。新聞での頻度が急増するのは、この事情を反映するものである。

【言い換えの論点】

- 「アウトソーシング」には、事業の中核に資源を集中投入し、周辺的な部分を外部に委託する、という考え方が基本にあり、従来あった「外注」とは区別すべき概念であると考えられる。一方で、「外部委託」に比べて、「外注」は分かりやすい。意味の厳密さを求める場合と、分かりやすさを優先させる場合とで、言い換え語を使い分ける方向で、提案した。

5. アカウンタビリティ accountability

「外来語」言い換え提案（第3回）

	全体	60歳以上
アカウンタビリティ	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	説明責任	
用例	法外な役員報酬やアカウンタビリティの欠如に対する批判が高まっていた	
意味説明	行政や企業などが、社会に対して、事業に関する情報をいつでも開示し、説明できるようにしている責任	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政や経営の分野を中心に、1990年代半ばから、よく使われるようになった語。2000年代になって、「説明責任」と言い換えることが一般的になりつつある。 ・ 「説明責任」の言い換え語だけでは概念が十分に伝わらないと思われる場合は、「説明責任（情報をいつでも開示し説明できるようにしている責任）」などと説明を付けることなどの配慮も効果的である。 	

【調査データ】

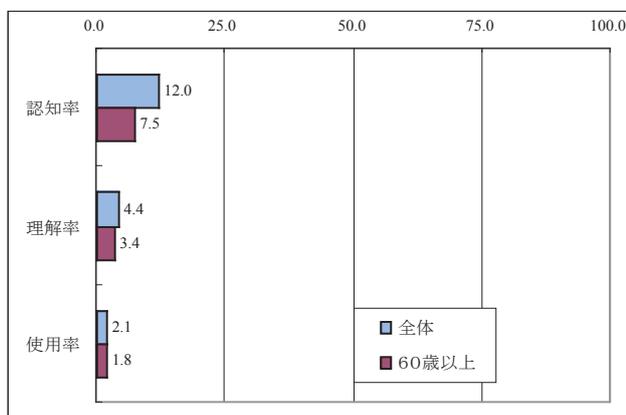


図1 定着度（全体・60歳以上）%

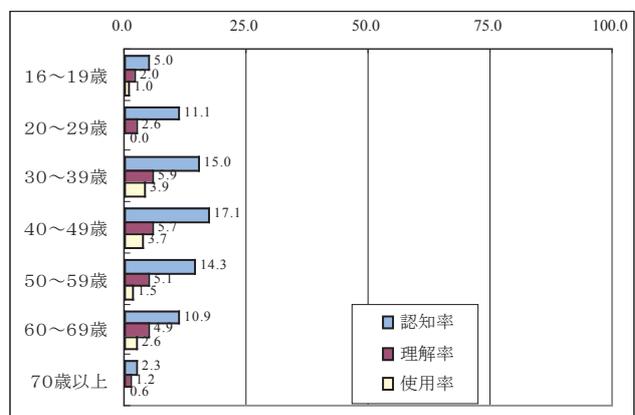


図2 定着度（年齢層別）%

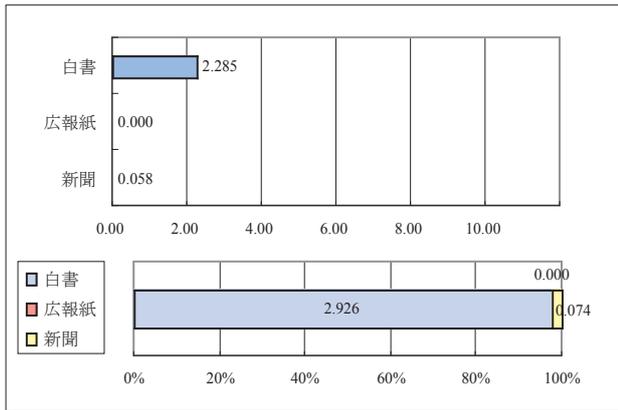


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

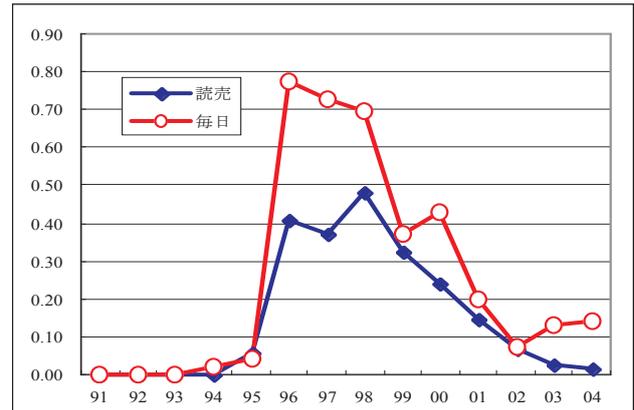


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

○定着度はきわめて低い。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がきわめて高い。

○新聞の頻度推移は、1990年代後半に登場し一気に増加するが、2000年代になって急速に減少に向かう。

【背景事情】

○2000年代に「アカウントビリティー」の使用頻度が減少した背景には、言い換え語「説明責任」が普及し定着した事情があると考えられる。「説明責任」の頻度推移を新聞で見ると、2000年代に増加している。

【言い換えの論点】

○言い換え語「説明責任」は、「説明を行う責任」という意味にとらえられるおそれがあり、「アカウントビリティー」の持つ「説明できるようにしている責任」という意味が表せない、という問題がある。一方、定着が進みつつある「説明責任」という言い換え語に代わる新たな言い換え語を提案することは、混乱を招くおそれがある。

○上述の問題を回避するために、「アカウントビリティー」の厳密な概念を正確に伝えたい場合には、「説明責任」の言い換え語を使いつつも、意味を詳しく説明しながら使うことを、[手引き]で推奨した。

6. アクションプログラム action program

「外来語」言い換え提案(第1回)

アクションプログラム	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	実行計画	
用例	基本計画の策定された地域において <u>アクションプログラム</u> を策定し	
意味説明	実行に移すための具体的な計画	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ同じ意味内容を表す「アクションプラン」も、分かりにくい外来語。同じく「実行計画」と言い換えることができる。 ・「アクションプログラム」「アクションプラン」と対になって用いられる「マスタープラン」[⇒141]は、「基本計画」と言い換えることができる。 ・行動することを強調したい場合は「行動計画」、計画よりも具体的な手順を示したい場合は「実行手順」などと言い換えることもできる。 ・役所の施策名などを引用する場合も、上記の言い換え語などを用いた説明付与が望まれる。 	
その他の言い換え語例	行動計画 実行手順	

【調査データ】

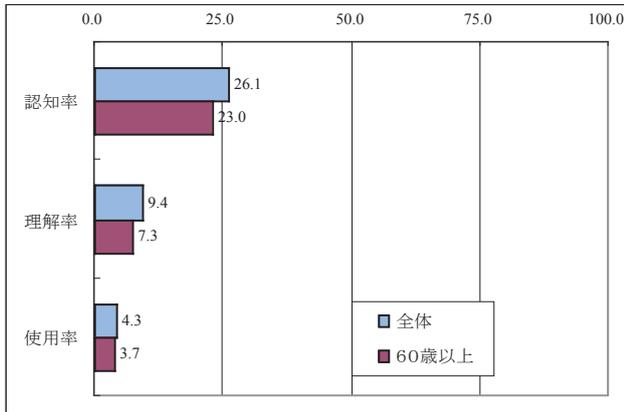


図1 定着度（全体・60歳以上）%

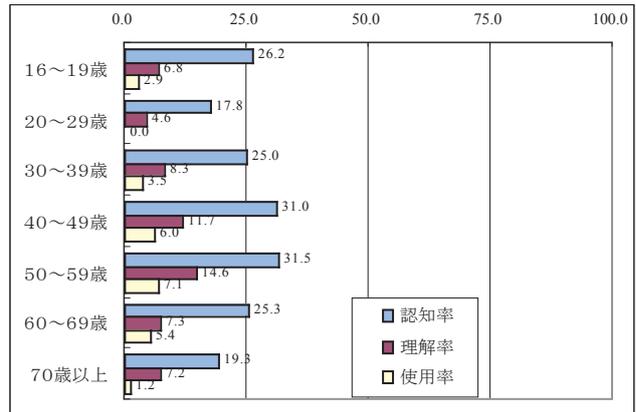


図2 定着度（年齢層別）%

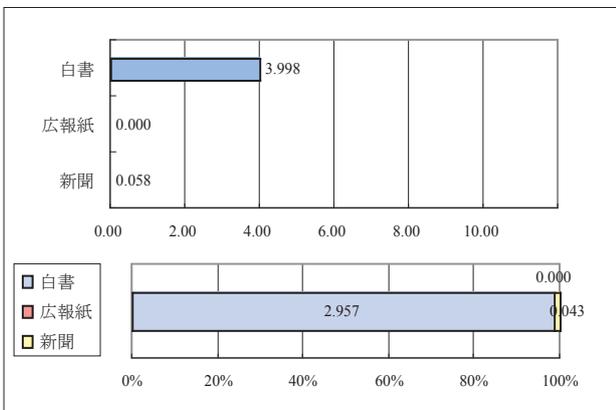


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

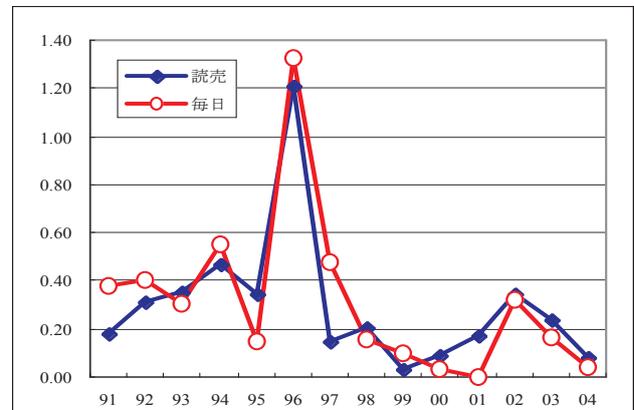


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、1996年が特に多い。1996年は、沖縄の「基地返還アクションプログラム」が話題になった年である。

【背景事情】

- 役所が施策名に付けることで広まる語であり、新聞の用例の多くも、その引用である。ほぼ同義の「アクションプラン」をはじめ、「スキーム」（計画）、「マスタープラン」（基本計画）、「グランドデザイン」（全体構想）、「アジェンダ」（行動計画）など、役所ではこの種の外来語が多用される。

【言い換えの論点】

- 役所は率先して言い換えるべきこと、それを引用する報道機関が説明を付けるべきことを、提案の「手引き」に記すことで、役所主導で広まっている分りにくい外来語への対応方法を示した。

→参照 アジェンダ、グランドデザイン、スキーム、マスタープラン

7. アクセシビリティー accessibility

「外来語」言い換え提案（第4回）

	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
アクセシビリティー		
言い換え語	利用しやすさ	
用例	情報機器に対する <u>アクセシビリティー</u> を保証することは、いまや世界的に基本的人権の一つとして考えられている。	
意味説明	情報やサービスなどが、高齢者や障害者も含めてどんな人にも利用しやすいこと	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報通信機器を通して提供される情報やサービスについて使われることが多い。文脈によっては「使いやすさ」「接続しやすさ」「近づきやすさ」などと言い換えることもできる。また、「利便性」という漢語で言い換えることが適切になる場合もある。 ・ 「情報やサービスの利用しやすさ」「どんな人にも利用しやすいこと」のように、詳しく説明する方が分かりやすい場合も多い。 ・ 「アクセシビリティー」が意味する利用しやすさは、便利に利用できるように工夫された使い勝手の良さではなく、どんな人でも利用できるように工夫された利用しやすさのことである。概念を正確に伝える必要のある場合は、言い換えよりも説明を付けて用いることが望まれる。 ・ 高齢者や障害者に利用しやすい環境を整備していこうという方向は、「バリアフリー」（障壁なし・障壁除去）[⇒117]、「ユニバーサルデザイン」（万人向け設計）[⇒156]、「ノーマライゼーション」（等しく生きる社会の実現・等生化）[⇒104]などの外来語で表される概念の普及とともに、今後ますます重要視されていくと考えられる。これらの概念を定着させるためにも、分かりやすく言い換えたり説明を付けたりする必要性は高い。 ・ 交通手段が整っていて、交通が便利な状態を指して使われる場合もあるが、その場合は「交通利便性」「交通の便の良さ」などと言い換えることができる。 	
その他の言い換え語例	使いやすさ 接続しやすさ 近づきやすさ 利便性 交通利便性 交通の便の良さ	
複合語例	情報アクセシビリティー = どんな人にも情報やサービスが利用しやすいこと ウェブアクセシビリティー = インターネットの情報が利用しやすいこと	

【調査データ】

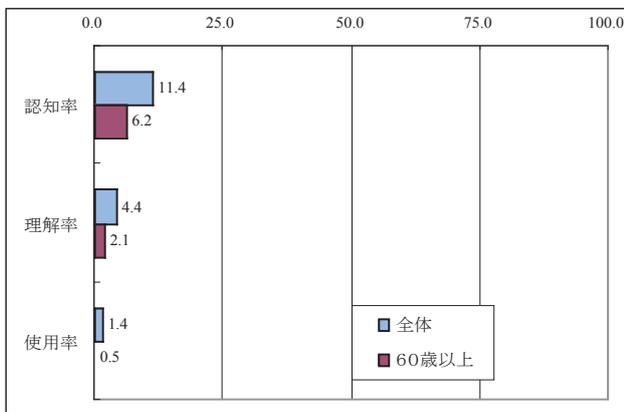


図1 定着度（全体・60歳以上）%

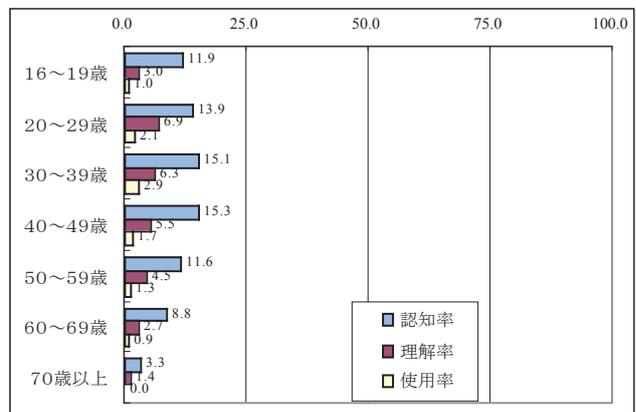


図2 定着度（年齢層別）%

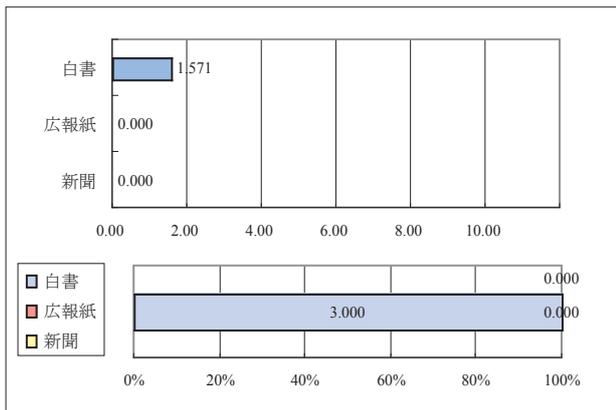


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

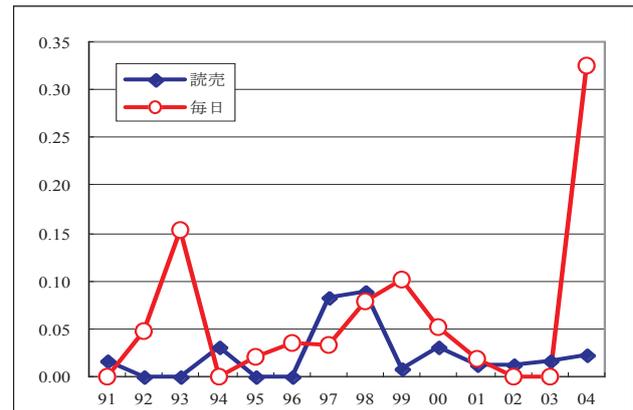


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度はきわめて低く、推移の傾向を見ることはできない。

【背景事情】

- 白書で「アクセシビリティ」の頻度が高いのは、2004年に制定された日本工業規格「高齢者・障害者等配慮設計指針」(JIS X 8341)に関わる政府の施策があったことと関連している。この施策は、高齢者や障害者に利用しやすい生活環境を整備していこうとする、「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」「ノーマライゼーション」などの考え方の広まりに伴うものである。

【言い換えの論点】

- 「アクセシビリティ」の類義語に「ユーザビリティ」があり、専門分野では、「ユーザビリティ」は、便利に利用できるように工夫された利用しやすさ、「アクセシビリティ」は、どんな人にも利用できるように工夫された利用しやすさ、と区別されている。
- 現状では「アクセシビリティ」が、一般国民の目に触れるところでも使われ始めているのに対して、「ユーザビリティ」は専門分野での使用にとどまっており、当面は「アクセシビリティ」を分かりやすく言い換えたり説明を付けたりすることが必要である。
- 「利用しやすさ」の言い換え語では、「アクセシビリティ」の概念が十分に伝わらない場合もあると考え、言い換えよりも説明を行う工夫の方法も、[手引き]で推奨した。

→参照 アクセス, ノーマライゼーション, バリアフリー, ユニバーサルデザイン

8. アクセス access

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
アクセス	★★★★☆	★★☆☆☆
言い換え語	(1) 接続	(2) 交通手段 (3) 参入
用例	<p>(1) 携帯電話を使ったインターネットへの<u>接続</u>は日本が先行している。</p> <p>(2) 空港ビルや<u>交通手段</u>の<u>アクセス</u>の整備に相当な期間を要する。</p> <p>(3) 中小企業は大企業と比べて企業の経営内容について情報開示が限定的であり、資本市場への<u>参入</u><u>アクセス</u>にも限界があるため、</p>	

意味説明

- (1) 情報に接近し利用すること
- (2) 交通や連絡の便
- (3) 市場に入り込むこと

手引き

- ・ 定着に向かっている語だと思われ、「アクセス」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。
- ・ 特に(1)は、インターネットの普及に伴い、今後ますます「アクセス」が定着していくことが見込まれ、情報に接近し利用することを一語で表す点も便利である。言い換えにくい場面や文脈では、説明を付けて「アクセス」を使うことも考えられる。
- ・ (1)(2)は、用法も多岐にわたっており、その他の言い換え語例に示すものも用いて、文脈によって言い換え語を変える工夫も効果的である。
- ・ (1)(2)(3)いずれも動詞として用いる場合も多く、(1)「接続する」「接近する」「利用する」、(2)「連絡する」、(3)「参入する」、などと言い換えられる。

その他の言い換え語例 (1) 接近 利用 (2) 交通の便 連絡

複合語例 (2) 交通アクセス = 交通手段

【調査データ】

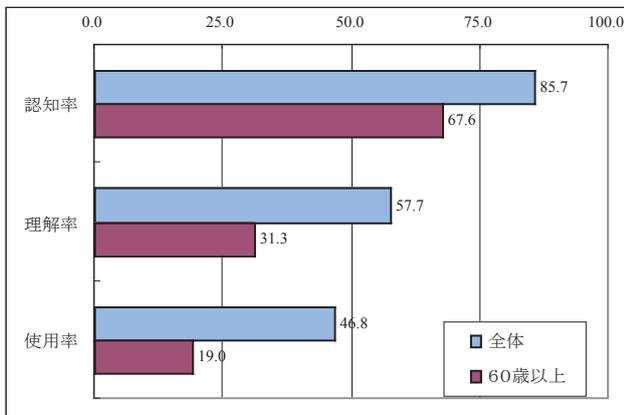


図1 定着度(全体・60歳以上) %

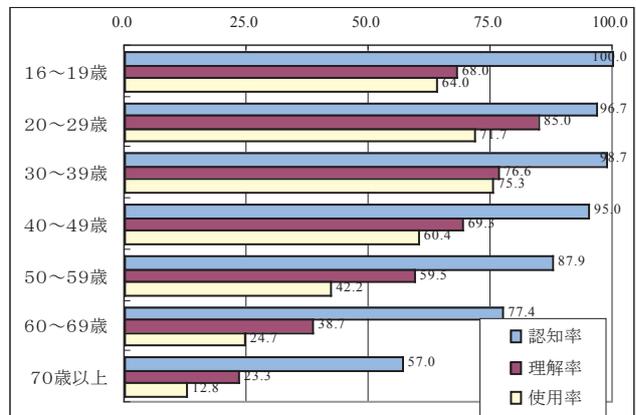


図2 定着度(年齢層別) %

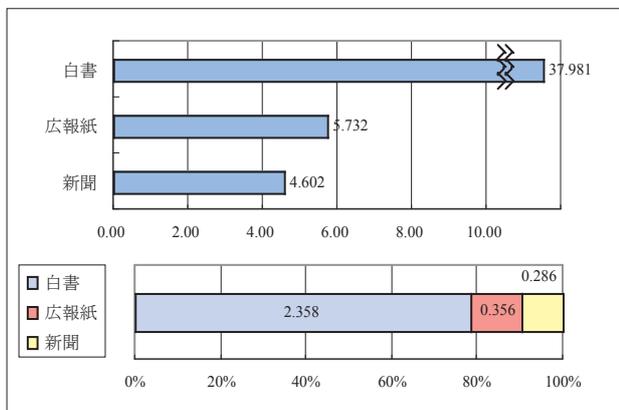


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

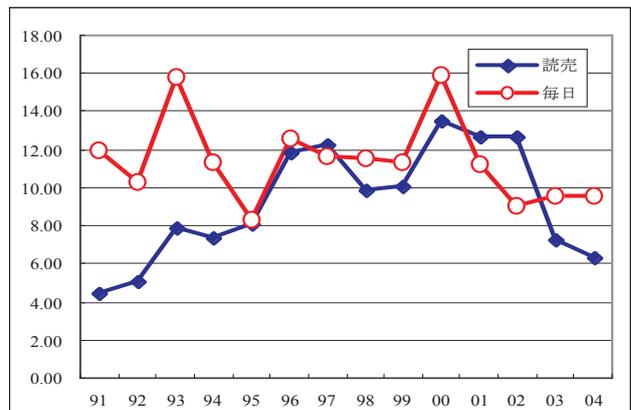


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。認知率と理解率の乖離が大きい。年齢層による差異が大きい。60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度はきわめて高い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、1990年代にほぼ一貫して増加した。2000年以後は横ばいとなり、頻度は安定している。

【背景事情】

- 媒体別の頻度を、語義別に調査してみると、(3)参入の語義は、白書には多いが、新聞・広報紙にはあまりないことが分かる。これは、(3)参入の語義が、専門性の高いものであることによると考えられる。
- 新聞の頻度推移を、語義別に調査してみると、(1)接続の語義が、1990年代半ば以後急速に増加していることが分かる。これは、社会の情報化の進展によるものだと考えられる。

【言い換えの論点】

- 「アクセス」の(1)の意味は、情報に接近することと利用することを一語で表せる点で便利であり、そうした意味の単語は日本語にない。「接続」の言い換え語では十分意味が伝えられない場合もあるので、[意味説明]に示した説明を付けつつ「アクセス」を使う表現方法についても、[手引き]で提案した。
- 一方、(2)(3)については、[言い換え語]や[その他の言い換え語]に示した日本語の単語で、ほぼ意味を表すことができるので、言い換えを推奨した。

→参照 アクセシビリティ

9. アジェンダ agenda

「外来語」言い換え提案（第1回）

	全体	60歳以上
アジェンダ	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	検討課題	
用例	自らが推進する問題の重要性と緊急性を訴えて <u>アジェンダ</u> の優先順位を争おうとする。	
意味説明	公式に取り組むべき検討課題	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・会議などの議題を指す場合は「議題」、施策の名称などを指す場合は「行動計画」などと、言い換えることができる。 ・官公庁の施策名として使われることが多いが、これを引用する場合は、「アジェンダ〇〇（〇〇行動計画）」のように、説明を付けることが望まれる。 	
その他の言い換え語例	議題 行動計画	

【調査データ】

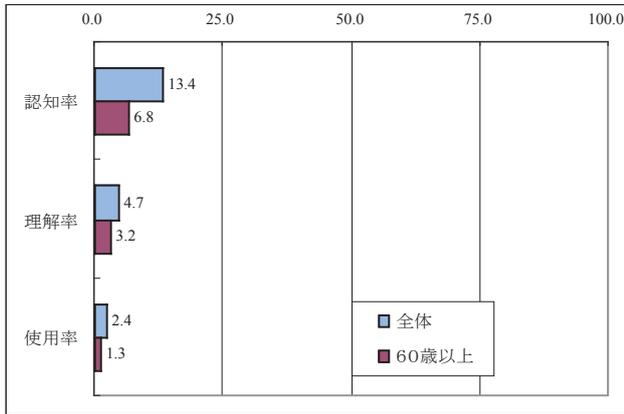


図1 定着度（全体・60歳以上）%

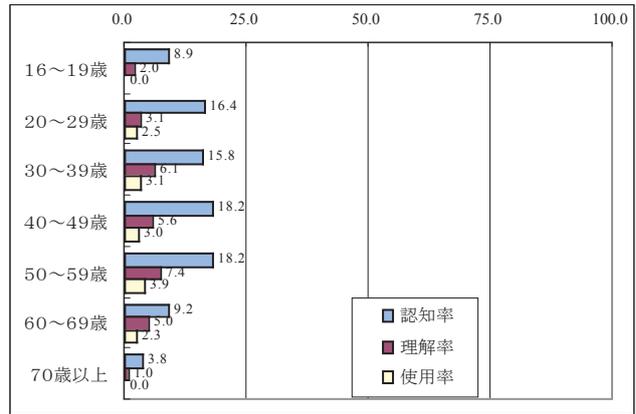


図2 定着度（年齢層別）%

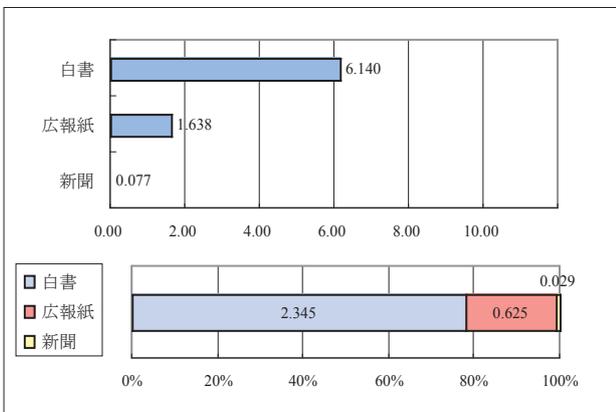


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

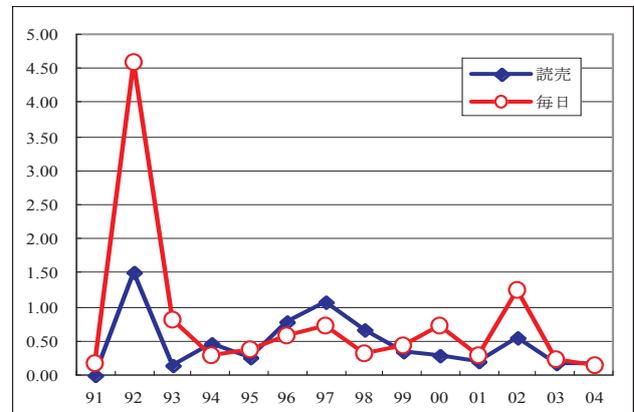


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がやや高い
- 新聞の頻度推移は、全体を通しての増減の傾向はない。1992年のみが突出しているのは、「アジェンダ21」という施策名が繰り返し話題にされたことによるものである。

【言い換えの論点】

- 単独で一般語として使われる場合は「検討課題」の言い換え語で問題ないが、白書や新聞の用例の多くは、施策名の一部に組み込まれているもので、「検討課題」の言い換え語では不適切な例である。この場合は、「行動計画」という意味で使われているので、「○○行動計画」などと説明を付けることが効果的である。その旨を、[手引き]に記した。

→参照 アクションプログラム, グランドデザイン, スキーム, マスタープラン

10. アセスメント assessment

「外来語」言い換え提案（第1回）

アセスメント	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	影響評価	
用例	地元は環境に配慮した空港づくりを求め、陸上ルートの実機テストや、 <u>影響評価</u> <u>アセスメント</u> を慎重にやった。	
意味説明	事業が周囲に与える影響を査定し評価すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・「アセスメント」が単独で用いられる場合の多くは、開発事業が環境にどのような影響を与えるかを査定し評価する「環境アセスメント」を指しており、「影響評価」はその場合の言い換え語である。 ・どのような評価を行うかによって、適切な言い換え語が変わってくる場合があり、「事前評価」「再評価」などが最適になることがある。特に複合語にその傾向が強く、複合語例に示すように、評価の内容や方法に応じて個々に工夫する必要がある。 ・文脈によっては、単に「評価」「査定」と言い換える方が分かりやすい場合もある。 ・「アセス」という略語も見かけるが、分かりにくく、そのままの形で用いることは避けた方が良い。 	
その他の言い換え語例	事前評価 再評価 評価 査定	
複合語例	環境アセスメント = 環境影響評価 リスクアセスメント = 危険事前評価 時のアセスメント = 事業再評価 政策アセスメント = 政策評価 政策事前評価 自動車アセスメント = 自動車の安全性能評価 ライフサイクルアセスメント = 製品の循環過程における環境影響評価	

【調査データ】

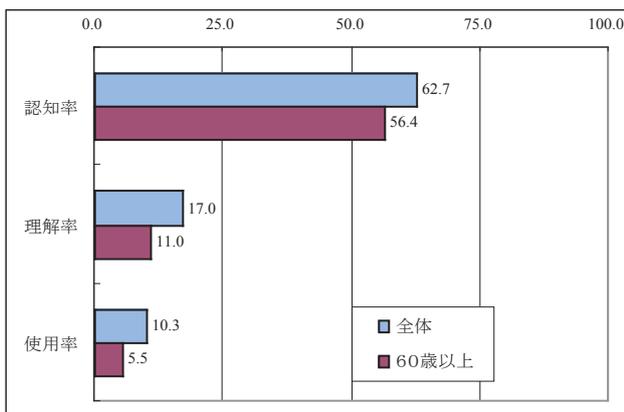


図1 定着度（全体・60歳以上）%

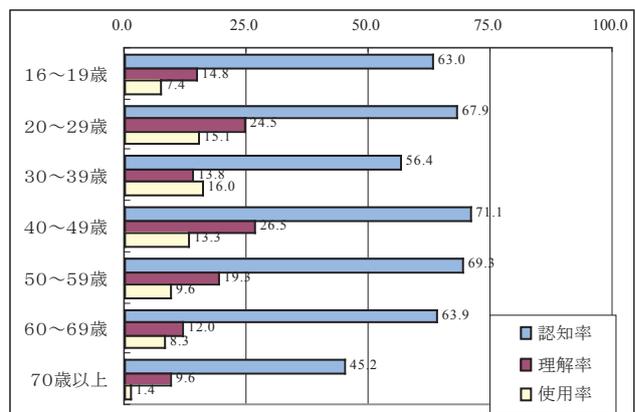


図2 定着度（年齢層別）%

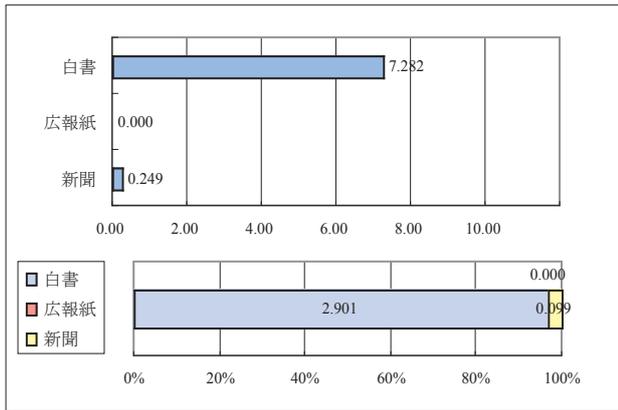


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

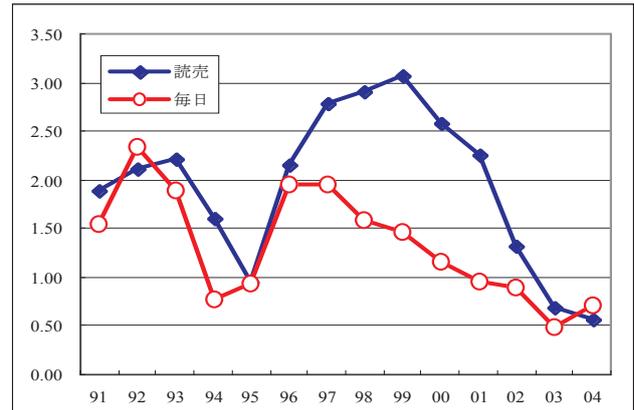


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離がきわめて大きく、乖離率を計算すると、言い換え提案で取り上げた外来語の中で、最大の数値を示す。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、1992～1993年と、1990年代後半に増加するが、それ以外では減少傾向を示す。

【背景事情】

- 「アセスメント」の使用例の中で最も多いのは、「環境影響評価(環境アセスメント)」を指すものである。新聞の頻度推移のグラフが、二つの山を形成しているのは、法律の制定・施行にかかわる政策や社会の動向を反映している。1992～1993年の増加は「環境基本法」(1993年)、1990年代後半の増加は「環境影響評価法」(1999年)に関連する動きである。

【言い換えの論点】

- 与える影響について、「査定」することと、「評価」することとの、二つの局面を含む語であるが、意味の重心は「評価」の方にあると考えられる。したがって、言い換え語も「評価」を含む語が最適となる用例が多い。
- 評価の対象が何であるか、また、評価をいつ行うのかなどによって、「アセスメント」は多様な局面を指して使われている。文脈に応じて、言い換え語を使い分けることが求められることを、[手引き]に記した。
- 見聞きはしていても、意味の分からない人が多いのは、上記のような意味の複雑さにも起因していると考えられる。「アセスメント」を使う側が、言い換えや説明を工夫する必要は特に高いであろう。

11. アナリスト analyst

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
アナリスト	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	分析家	
用例	長期金利が急上昇する危険性を指摘する分析家アナリストが多い。	
意味説明	ある専門分野の情勢を分析する人	

手引き

- ・ある分野の専門家ととらえた方が分かりやすい場合もあり、その場合は、「専門家」「分析専門家」などの言い換え語が適切になる。
- ・「証券アナリスト」「金融アナリスト」など職業名、資格名としてよく使われるものもある。この場合も、専門外の人には分かりにくいので、「〇〇分析家」と言い添えたり、「証券アナリスト（投資の助言を行う専門家）」「金融アナリスト（金融の分析を行う専門家）」などと、説明を付すようにしたい。

その他の言い換え語例 専門家 分析専門家

【調査データ】

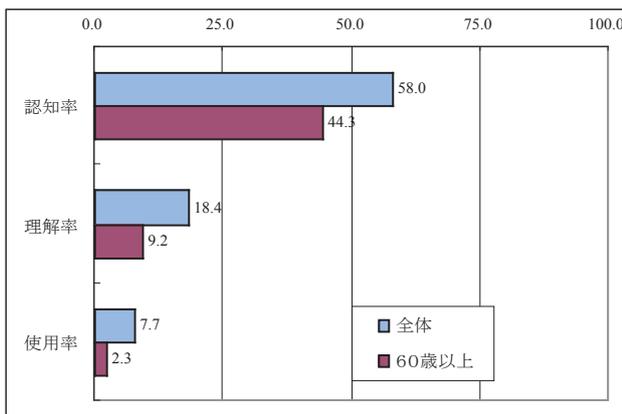


図1 定着度（全体・60歳以上）%

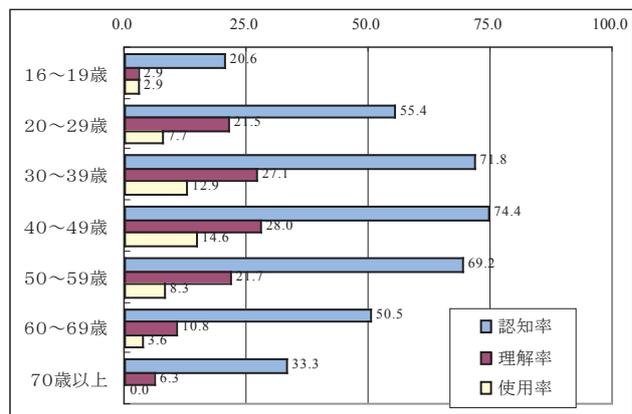


図2 定着度（年齢層別）%

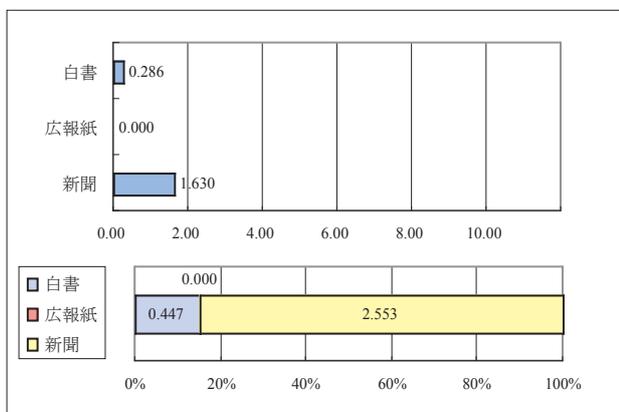


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

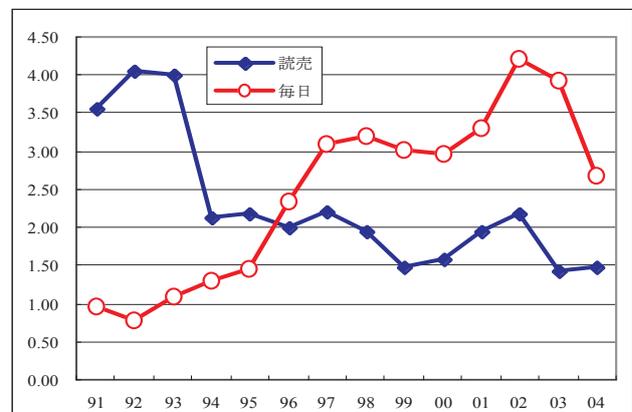


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離がきわめて大きい。理解率と使用率の乖離も大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。新聞への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移は、読売新聞は減少傾向を示し、毎日新聞では増加傾向を示す。この違いは、経済や市況の記事で、アナリストのコメントがどの程度登場するかによるものであり、新聞の編集方針に起因するものと考えられる。二紙を合わせると、頻度の変動はないとも見られる。

【言い換えの論点】

- 職業や資格の名称は言い換えにくい場合も多いが、定着度が低く、認知率と理解率の乖離がきわめて大きい現状では、意味を伝える必要性が高い。[手引き]で、説明を付与することを推奨した。

12. アミューズメント amusement

「外来語」言い換え提案（第4回）

アミューズメント	全体 ★★★☆☆	60歳以上 ★☆☆☆☆
言い換え語	娯楽	
用例	映画館とアミューズメント施設で、初年度七億円の売り上げを見込む。	
意味説明	遊園地やコンピューター機器などによって提供される娯楽	
手引き	・「アミューズメント」単独で施設や機器を指す場合もあり，その場合は「娯楽施設」「娯楽機器」と言い換えることができる。	
その他の言い換え語例	娯楽施設 娯楽機器	
複合語例	アミューズメントパーク = 遊園地	

【調査データ】

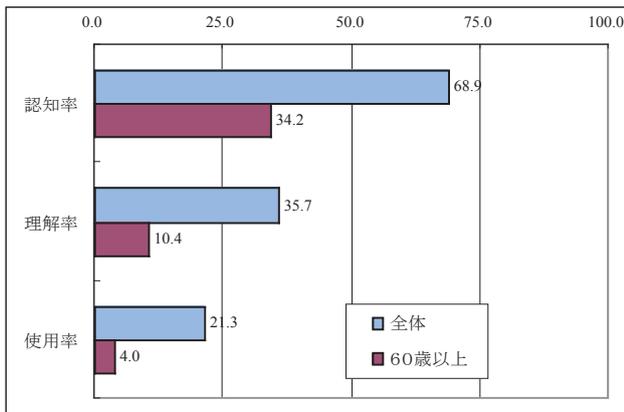


図1 定着度（全体・60歳以上）%

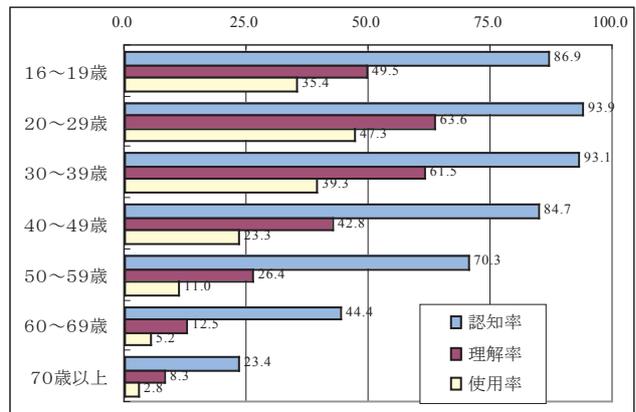


図2 定着度（年齢層別）%

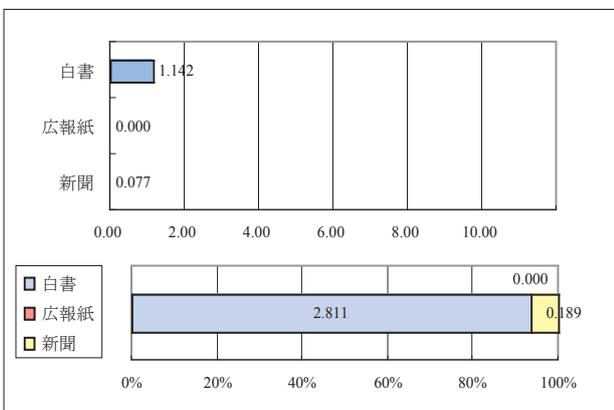


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

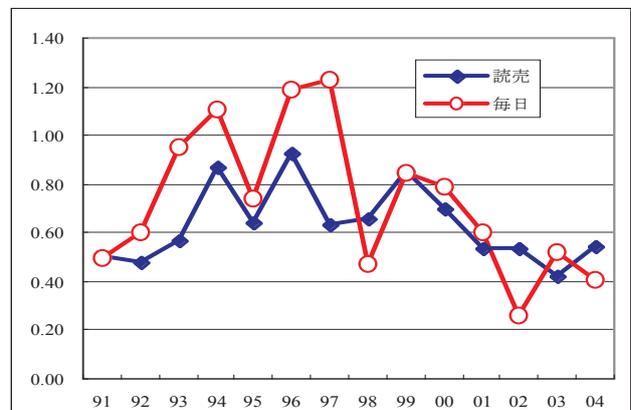


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度はやや低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。年齢層による差異が大きい。20～30歳代が高く、60歳代が特に低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、1990年代半ばから後半に多く、その後はやや減少傾向を示す。

【言い換えの論点】

- 「アミューズメント」は、商業活動においてよく使われる言葉であり、公共媒体での使用頻度はどちらかといえば低い方である。しかし、白書にはよく使われており、新聞にも施設名の一部として使用される場合がある。娯楽産業、娯楽施設、娯楽機器などを指すことを、言い換えや説明などで示す必要はあると考えた。

13. アメニティー amenity

「外来語」言い換え提案（第1回）

	全体	60歳以上
アメニティー	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	快適環境	快適さ
用例	同連合は、公園の利用、管理を通じて ^{快適環境} アメニティーや余暇対策などを国際的に振興することを目的にした機関で、 快適さ アメニティーが最も求められる個所はトイレと浴室なのかもしれない	
意味説明	居住空間における快適さ	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な場所を指す場合は、「快適環境」あるいは「快適空間」、快適な状態を指す場合は、「快適さ」「住み心地の良さ」「居心地の良さ」と言い換えることができる。 ・ホテルなどの「アメニティーセット」は、「歯ブラシやシャンプーなどのセット」などと、必要に応じて説明を付与するのが望ましい。 	
その他の言い換え語例	快適空間 住み心地の良さ 居心地の良さ	
複合語例	アメニティーセット = 歯ブラシやシャンプーなどのセット	

【調査データ】

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、減少の方向にある。2004年に増加しているように見えるのは、この年に事故があり度々ニュースになった施設名が、繰り返し出現したことによる。

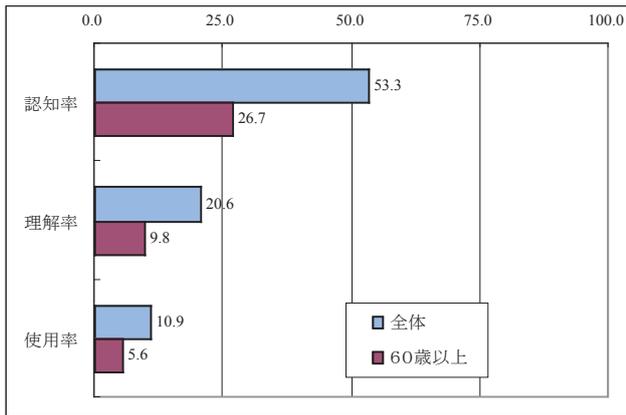


図1 定着度（全体・60歳以上）%

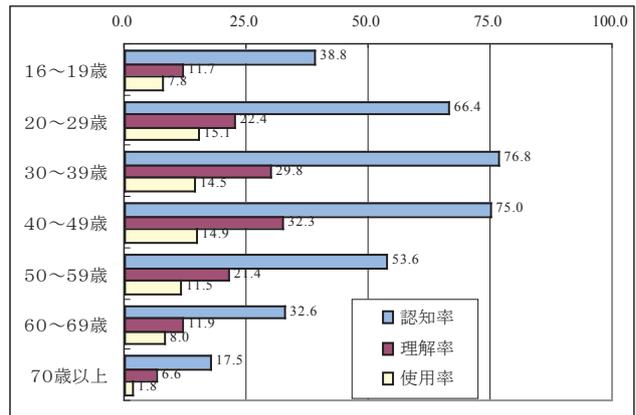


図2 定着度（年齢層別）%

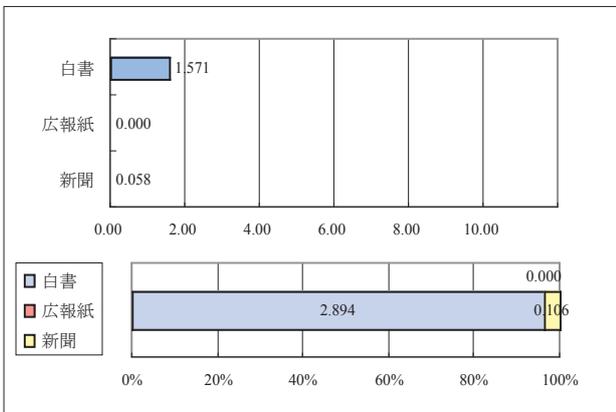


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

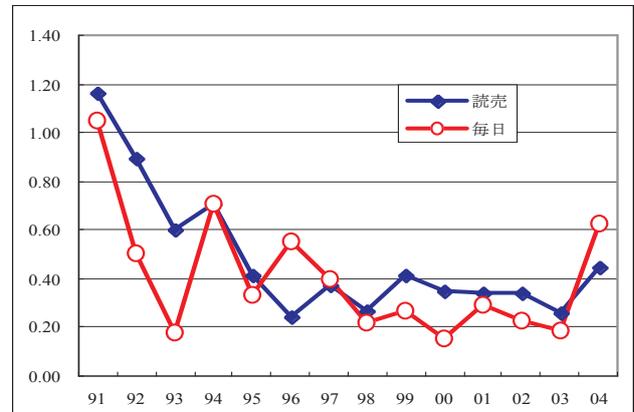


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○「アメニティー」は、快適な状態を表す側面と、快適に感じる場所を表す側面と、両面を持っている。その二つの側面を表すことができる二つの系統の言い換え語を使い分ける方向で、提案を行った。

14. イニシアチブ initiative

「外来語」言い換え提案（第3回）

	全体	60歳以上
イニシアチブ	★★☆☆	★☆☆☆
言い換え語	(1) 主導	(2) 発議
用例	<p style="text-align: center;">主 導</p> <p>(1) 市町村のイニシアチブのもと、地域住民の参画を得て作成した地域全体の振興計画</p> <p style="text-align: center;">発 議</p> <p>(2) 国際法の枠組みを変えてしまおうというイニシアチブであり、</p>	
意味説明	<p>(1) 自ら率先して先頭に立ち、他を導くこと</p> <p>(2) 率先して提唱する政治の方針</p>	

手引き

- ・(1)は、文脈によって「率先」と言い換える方が適切な場合がある。「イニシアチブを取る(握る)」という形などでは、「率先する」「主導権を取る(握る)」と言い換えるのが適切である。
- ・(2)は、「〇〇イニシアチブ」の形で、発議した人や、発議が行われた会議の開催地、あるいは、発議の目的や内容を「〇〇」に示して用いられる場合も多い。「沖縄イニシアチブ」「ASEAN統合イニシアチブ」など。こうしたものを引用する場合は、「〇〇構想」「〇〇行動計画」などの語で説明を加えると、分かりやすい。
- ・(2)は、住民投票にかける提案を、住民自身が発議する制度を指して使われる場合があり、その場合は「住民発議」という言い換えが適切である。

その他の言い換え語例 (1) 率先 主導権 (2) 構想 行動計画 住民発議

【調査データ】

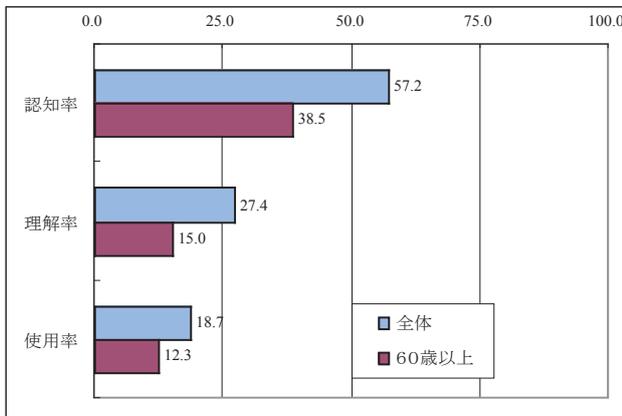


図1 定着度(全体・60歳以上) %

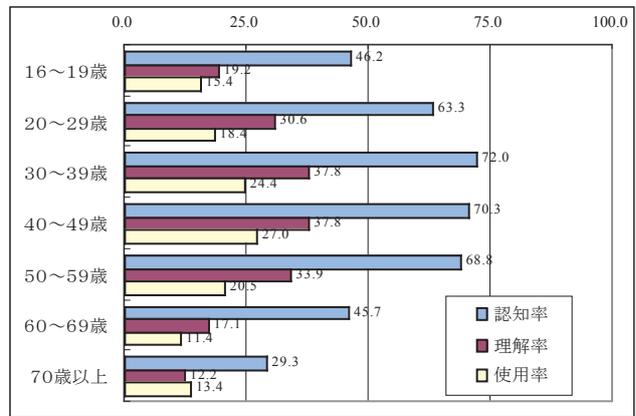


図2 定着度(年齢層別) %

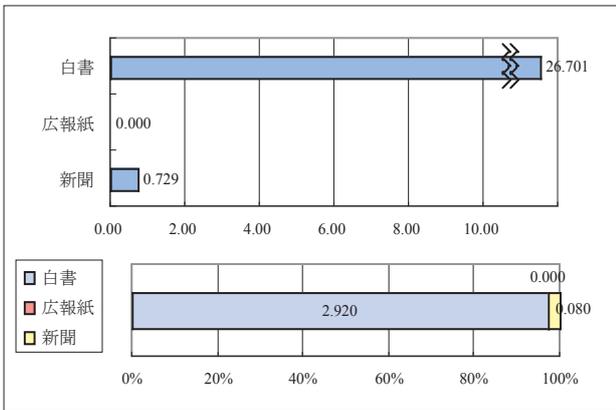


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

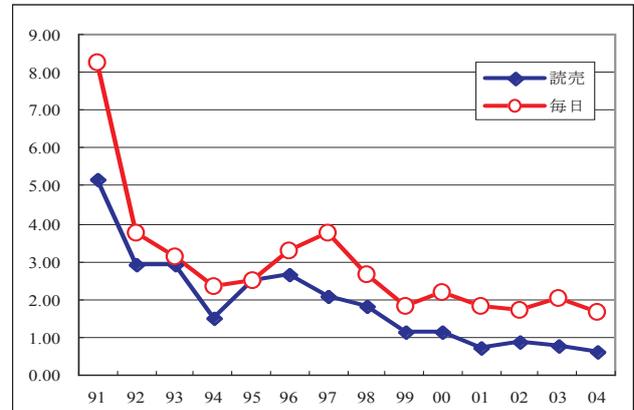


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はやや低い。認知率と理解率の乖離が大きい。60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移を見ると、減少傾向にある。1991年が突出しているのは、この年の外交のニュースでよく使われたことによる。

【言い換えの論点】

- 「主導」「主導権」あるいは「率先」で言い換えることのできる(1)の語義が基本である。一方で、公共媒体では、政治の方針を指す(2)の語義での用例も非常に多い。この語義は、(1)の語義と連続するものであるが、率先して方針を示す「発議」であることを明示する言い換え語を使う方が分かりやすいと考え、語義を区分した。

15. イノベーション innovation

「外来語」言い換え提案（第2回）

イノベーション 全体 ☆☆☆☆ 60歳以上 ☆☆☆☆

言い換え語 技術革新

用例 情報技術の発達は流通業に大きな影響を与えてきた。イノベーションは今後さらに加速化するだろう。

意味説明
経済や産業などの発展につながる、技術や仕組みの革新

手引き

- ・ 仕組みを革新することを指す場合、「経営革新」「事業革新」などと、何の仕組みかを具体的に示して言い換えるのが分かりやすい。また、文脈によっては単に「革新」と言い換える方が分かりやすい場合もある。
- ・ 数十年前から用いられている外来語で、省庁の白書にも多用されているが、一般の理解度は低い段階にとどまっており、言い換えや説明付与の必要性は高い。
- ・ 組織や会議の名称の一部になっていることも多いが、これらの名称を引用する場合も、必要に応じて説明を付与することが望まれる。

その他の言い換え語例 経営革新 事業革新 革新

【調査データ】

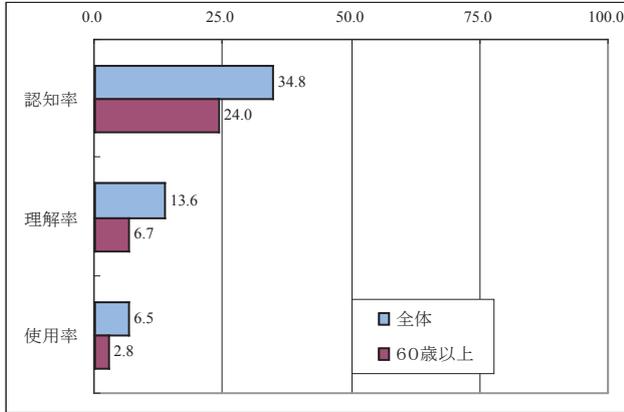


図1 定着度（全体・60歳以上）%

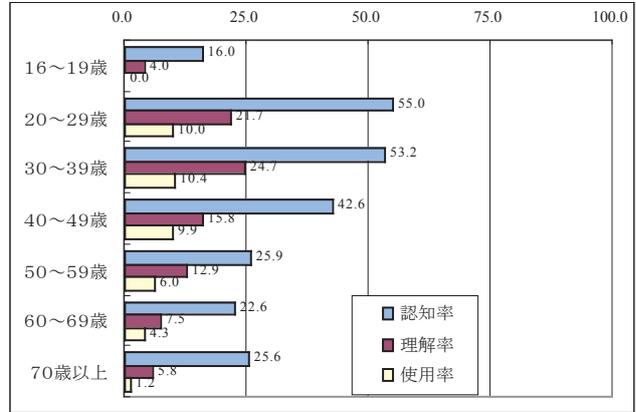


図2 定着度（年齢層別）%

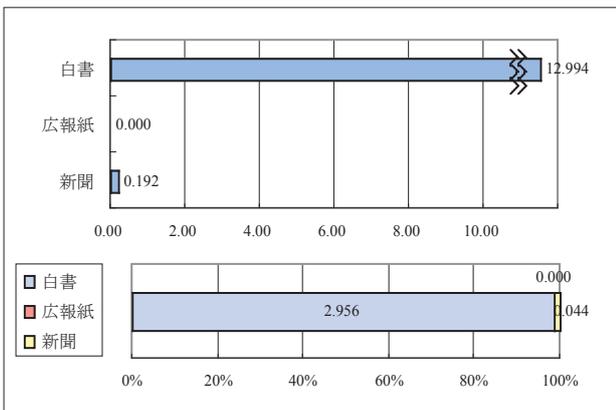


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

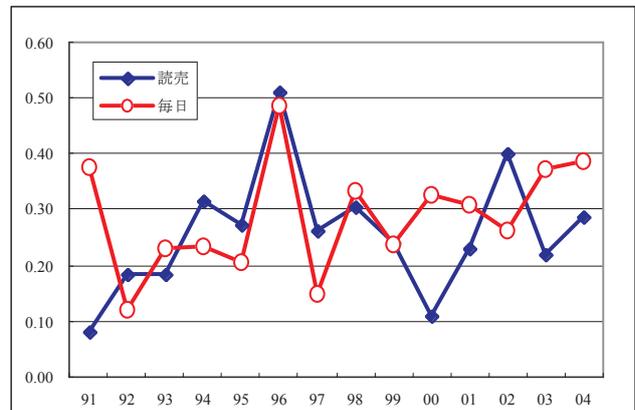


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。理解率と使用率の乖離も大きい。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、年による上下は目立つが、全体を通じた増減の傾向はない。定着に至らない段階で不安定な使用状況にあるものと見られる。

【言い換えの論点】

- 白書に多く、政策上で重要視されている語である。2006年からの安倍晋三政権においても、「イノベーション25」がうたわれている。公共媒体で頻度が高い割に定着の進んでいない語であるので、意味が伝わるような言い換えや説明の必要性は特に高いと考えられる。

→参照 本報告書第3部第7章「国会会議録を用いた外来語の分析—『イノベーション』を例として—」（茂木俊伸）。

16. インキュベーション incubation

「外来語」言い換え提案（第1回）

	全体	60歳以上
インキュベーション	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	起業支援	
用例	産業界との共同プロジェクトや <u>インキュベーション</u> などを手掛ける学外連携推進室を六月に発足させた。	
意味説明	新規に事業を起こすことを支援すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・「^{ふか}孵化」の意味から転じた経済用語として、日本語に取り入れられた。1990年代半ばに、新興企業（ベンチャー）[⇒133]が急速に増え、これを支援する施策も盛んになったことに伴い、「インキュベーション」の語も多く使われるようになった。 ・「^{ふかき}孵化器」の意味から、起業支援を行う機関を指す意味に転じた「インキュベーター」は、「起業支援機関」などと言い換えることができる。 ・話し言葉などで、「起業支援」が「企業支援」と紛れやすいと考えられる場合は、その他の言い換え語例に示す語を用いて言い換えることもできる。 ・「インキュベーション」「インキュベーター」の語を、施設や機関の名称に含む場合も多いが、これらの名称を引用する場合も、必要に応じて説明を付与することが望まれる。 	
その他の言い換え語例	起業家育成 新規事業支援 創業支援	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移によると、1999年頃から増加を始め、その後も増え続けている。

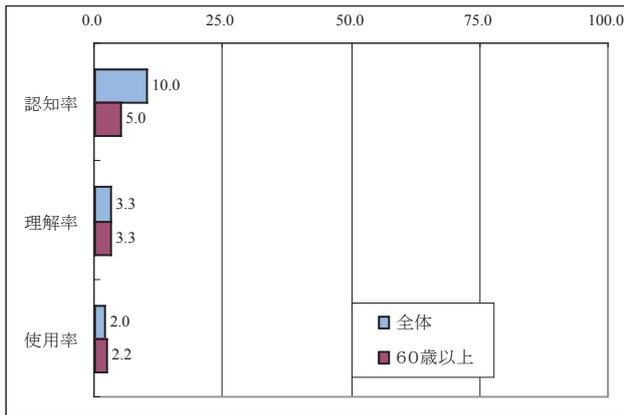


図1 定着度（全体・60歳以上）%

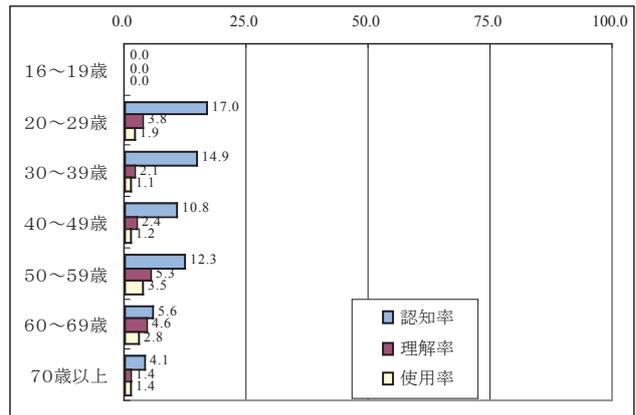


図2 定着度（年齢層別）%

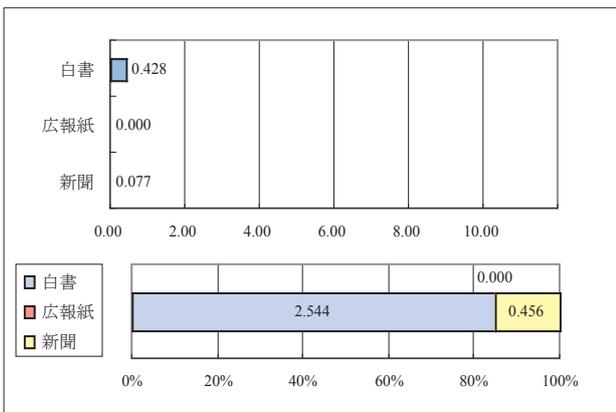


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

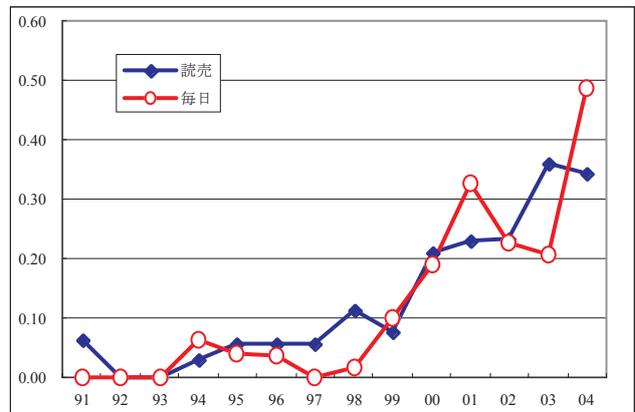


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【背景事情】

○1999年頃から増加を始めたのは、「新事業創出促進法」(1999年施行)など、新興企業を支援する政策が盛んにとられるようになったことによるものである。また、この頃「インキュベーションセンター」などの名称を持つ組織も増加した。

【言い換えの論点】

○原語での原義は「孵化」であるが、外来語として使われるのは、新規に事業を起こすことを支援する意味で、原義で使われることはほとんどない。言い換え語も転義の方でのみ対応した。

17. インサイダー insider

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
インサイダー	★★☆☆	★☆☆☆
言い換え語	内部関係者	
用例	従来、政治は不透明で利権がらみで内部関係者の牛耳る領域といった印象があっただけ一般市民の政治への思いは低迷していたが、	
意味説明	集団内部の事情に通じている人	

手引き

- ・ どのような集団の内部であるかを具体的に示し、「会社関係者」「業界関係者」などと言い換えることもできる。
- ・ 反意語に「アウトサイダー」があるが、「部外者」と言い換えることができる。
- ・ 証券取引の分野では「インサイダー取引」などの言い方が定着しているが、証券の知識に詳しくない人に伝える場合は、「インサイダー（内部）取引」あるいは「インサイダー取引（情報公開前に社内の人間によって株を売買すること）」のように、説明を付けて使うなどの配慮をするのが望ましい。

その他の言い換え語例 会社関係者 内部者 部内者

複合語例 インサイダー情報 = 内部情報
 インサイダー取引 = 内部取引
 インサイダー規制 = 内部取引規制

【調査データ】

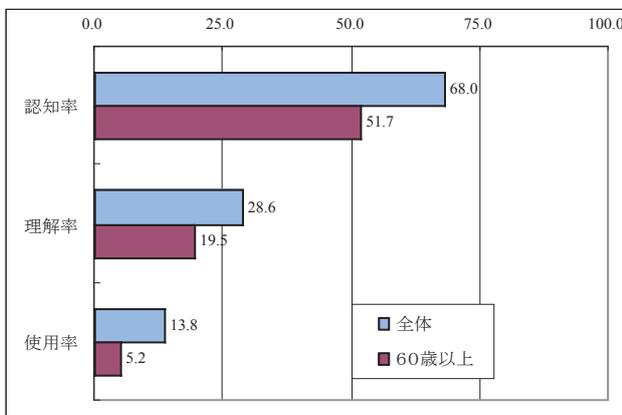


図1 定着度（全体・60歳以上）%

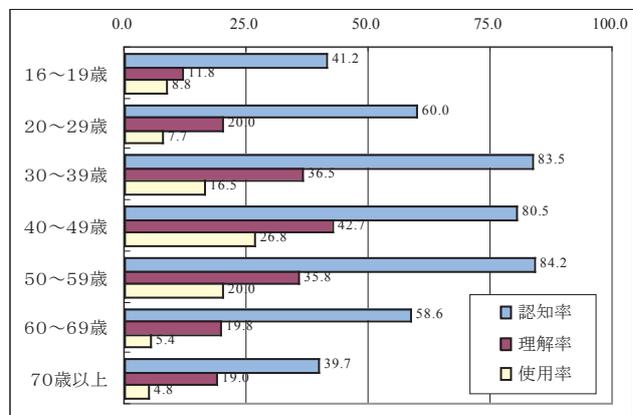


図2 定着度（年齢層別）%

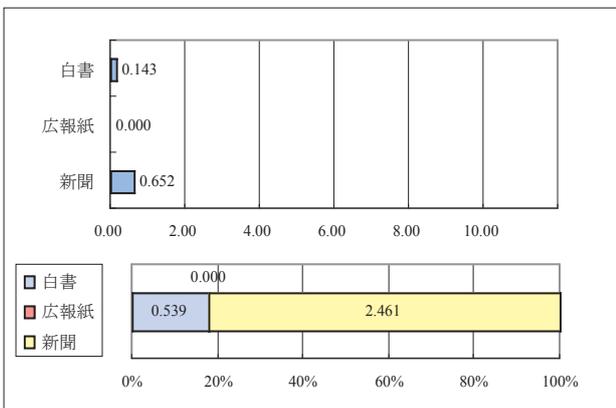


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

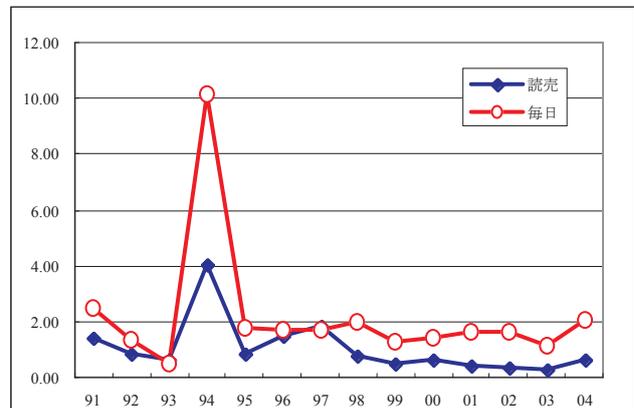


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はやや低い。認知率と理解率の乖離がきわめて大きい。理解率と使用率の乖離も大きい。40歳代が高い。
- 公共媒体における頻度はやや低い。新聞への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移には、全体を通しての増減の方向性はない。1994年のみ頻度が突出するのは、この年にインサイダー取引事件が多く話題になったことによる。

【言い換えの論点】

- 新聞に偏在するが、その例の多くは「インサイダー取引」という語で用いられている。証券に詳しくない人に伝える場合に必要になる説明の方法について、[手引き]で言及した。

18. インセンティブ incentive

「外来語」言い換え提案（第2回）

	全体 ☆☆☆☆	60歳以上 ☆☆☆☆
言い換え語	意欲刺激	
用例	環境負荷の少ない製品づくりに対する <u>インセンティブ</u> はほとんど働いていない。	
意味説明	ものごとに取り組む意欲を、報酬を期待させて外側から高める働き	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> 労働や経済などの専門分野で、「誘因」という言い換え語が使われることがあるが、一般に対して伝える場合は、やや分かりにくい面がある。 「モチベーション」（動機付け）[⇒150]が、意欲を内側から高める働きかけであるのに対して、「インセンティブ」は、報酬を期待させた外からの働きかけ。この違いを区別する必要のない場合は、「動機付け」と言い換えることもできる。 成果に報いる報酬そのものを指す場合は、「奨励金」「報奨金」などの言い換え語が適切になる場合もある。企業などの営業努力を高めるための措置を指す場合は、「優遇措置」と言い換えることもできる。 意欲そのものを指して用いられることもあり、その場合は「意欲」と言い換えることができる。 	
その他の言い換え語例	誘因 動機付け 奨励金 報奨金 優遇措置 意欲	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、年によって増減があるが、全体を通しての一定の傾向はない。定着に至らない段階で、不安定な状況にあると見ることができる。

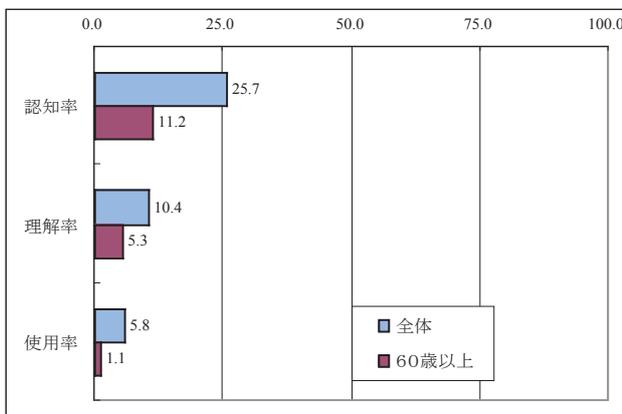


図1 定着度（全体・60歳以上）%

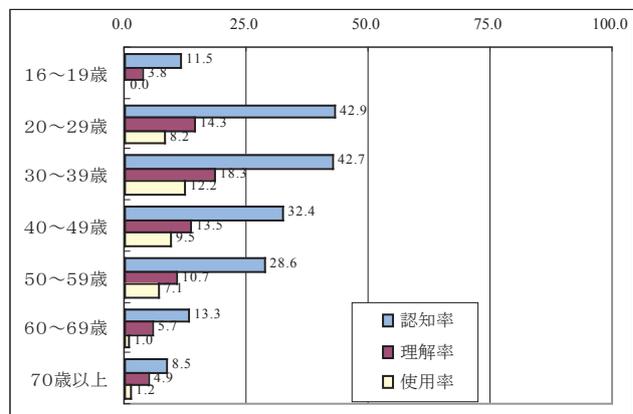


図2 定着度（年齢層別）%

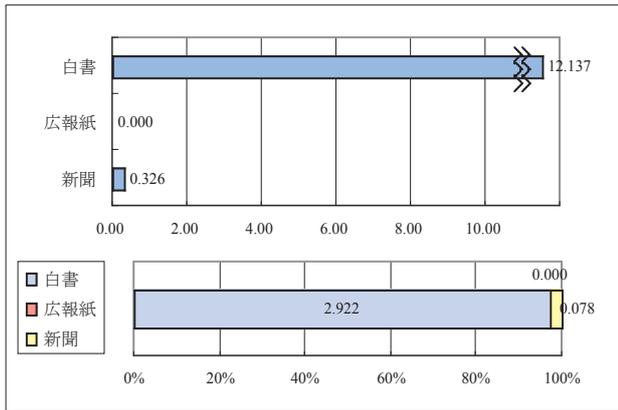


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

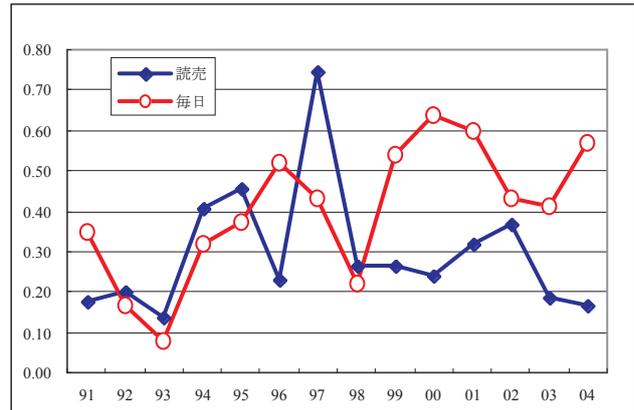


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

- これまでに専門分野で訳語として使われることのあった「誘因」は、「インセンティブ」の意味を伝えるには不十分で分かりにくい面があったため、あらたに「意欲刺激」という言い換え語を考案した。一方、「意欲刺激」は説明的過ぎて使いにくいという意見もあった。
- 主に報酬で成果に報いる刺激策を指すので、「奨励金」「報奨金」「優遇措置」など、具体的な内容を示して言い換える方が分かりやすい場合もある。この方法を [手引き] に記した。
- 類義語「モチベーション」との違いや関連に配慮した言い換えや説明の工夫が望まれる場合もあるので、[手引き] で言及した。

→参照 モチベーション

19. インターンシップ internship

「外来語」言い換え提案 (第1回)

インターンシップ	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	就業体験	
用例	採用とのかかわりをあまり心配するのではなく、 <u>インターンシップ</u> を人材育成と結びつけていくという積極的な視点を大切にしたい。	
意味説明	学生が企業などで仕事を体験しながら研修すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップの制度は、1990年代後半から整い始め、徐々に多くの企業や学校などに広がってきている。 ・ 現状では意味を理解していない人も多いので、言い換えたり、説明を付与することなどを通して、概念の定着を図る工夫が望まれる。 ・ 制度の内容や文脈によっては、「体験就業」「就業実習」「専門実習」などと言い換える方が分かりやすい場合もある。 	
その他の言い換え語例	体験就業 就業実習 専門実習	

【調査データ】

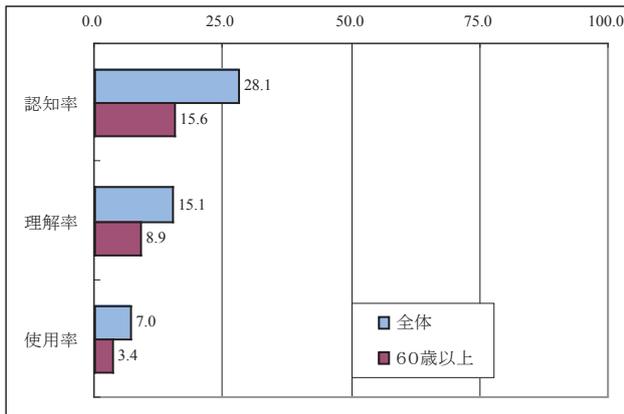


図1 定着度（全体・60歳以上）%

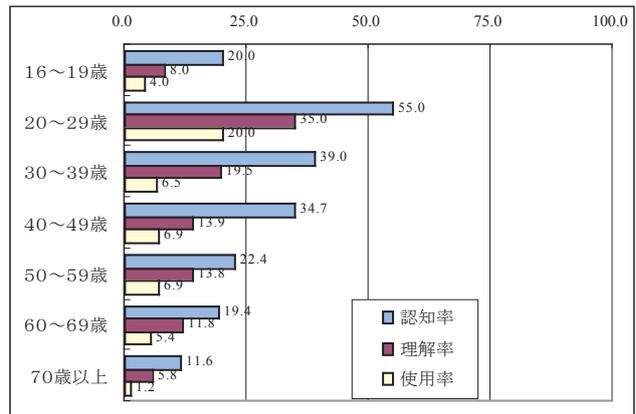


図2 定着度（年齢層別）%

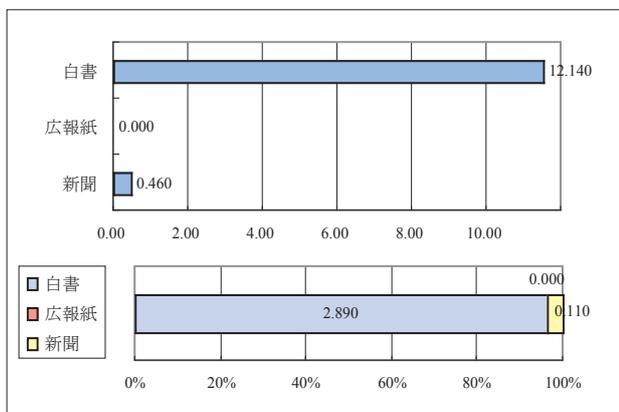


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

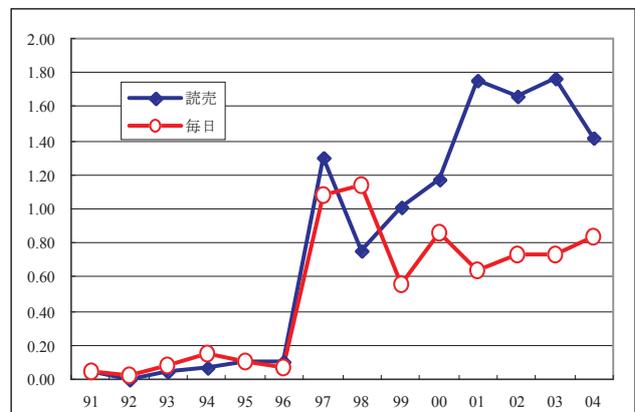


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。理解率と使用率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、1997年に急増し、数年間やや増加を続け、その後は安定する。

【背景事情】

- 1997年に閣議決定した「経済構造の変革と創造のための行動計画」で、インターンシップの推進がうたわれたことから、企業での導入が本格的に始まった。その後、次第に浸透してきていると考えられる。

【言い換えの論点】

- インターンシップの当事者になる年齢層にはかなり普及している。しかし、社会にインターンシップの制度や考え方を定着させるには、幅広い年齢層に理解してもらう必要がある。その場合の言い換えや説明の必要性について、[手引き]で触れた。

20. インタラクティブ interactive

「外来語」言い換え提案（第1回）

インタラクティブ 全体 60歳以上
 ★☆☆☆ ★☆☆☆

言い換え語 双方向的

用例 単に私から発信するだけでなく、電子メールなどで読者からの反応も直接に得られる 双方向的インタラクティブ な仕組みにしてある。

意味説明
 送り手と受け手が双方向に作用し合う様子

手引き

- ・通信による双方向のやり取りに関して使われる場合が多く、情報通信技術の進展と普及に伴い、1990年代半ばから一般にも広まり始めた。
- ・「双方向の(に・な)」「双方向型」などの言い換え語が適する文脈もある。
- ・相互に作用し合う様子を表したい場合は「相互作用」、会話を交わす様子を表したい場合は「対話的」と言い換えることもできる。

その他の言い換え語例 相互作用 対話的

【調査データ】

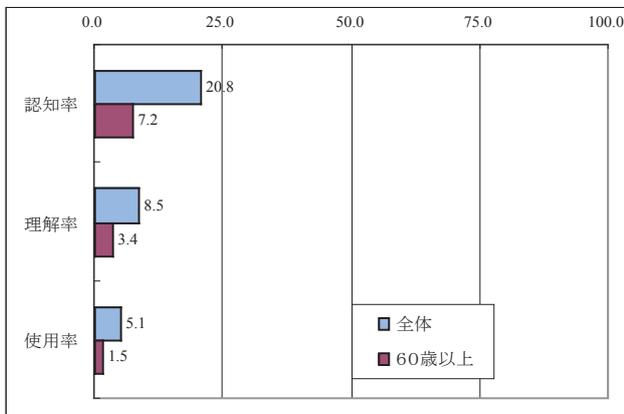


図1 定着度（全体・60歳以上）%

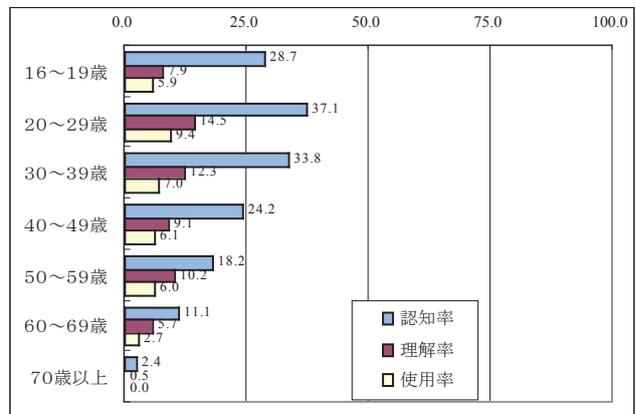


図2 定着度（年齢層別）%

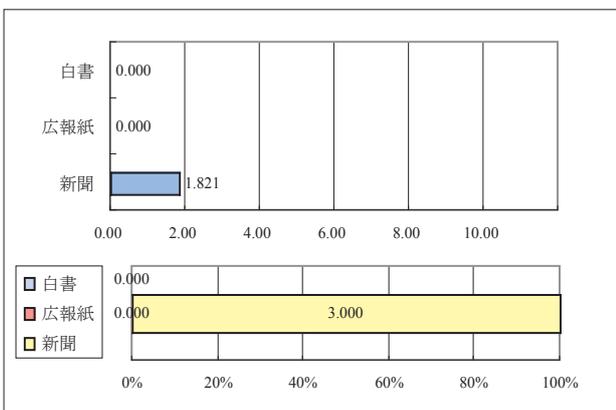


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

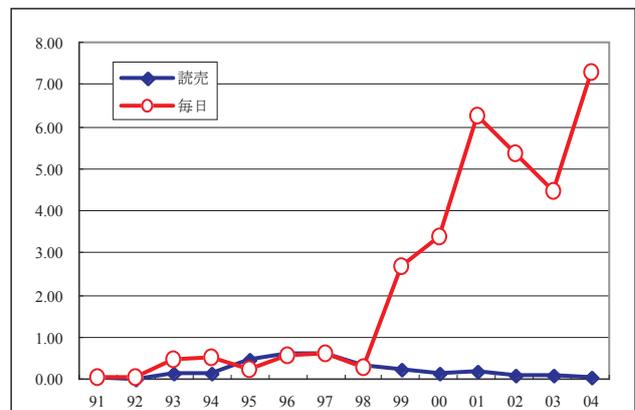


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。新聞への偏在度がきわめて高い。
- 新聞頻度推移では、毎日新聞でのみ1999年で急増し、その後同じ程度用いられている。ただし、これは毎日新聞社の「毎日インタラクティブ」というホームページへの言及例が大部分を占める。読売新聞では全体にあまり使われていない。

【言い換えの論点】

- 単に双方向であることではなく、双方向で相互に作用し合うことまでを意味する場合もある。その意味を表したい場合は、「相互作用」の言い換え語が適切になる。したがって、より基本的な意味を表せる「双方向的」を[言い換え語]に掲げ、文脈によって最適となる「相互作用」を、[その他の言い換え語例]に掲げることとした。
- 「対話的」が分かりやすいという意見もあった。確かななじみがあり分かりやすい語ではあるが、意味のずれが誤解を与える危険性も高いので、[その他の言い換え語例]に掲げることとした。

21. インパクト impact

「外来語」言い換え提案（第1回）

	全体	60歳以上
インパクト	★★★★	★★★★☆
言い換え語	衝撃	
用例	コンピューターは、文字の発明が人間社会に及ぼした以上のインパクト ^{衝撃} を与える可能性を持っている。	
意味説明	受け手に与える強い影響	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ かなり定着が進んでいる語で、そのまま使って大きな問題はないと思われる。ただし、60歳以上では、分かりにくいと感じる向きも少なくない（理解率52.9%）ので、読み手の中に高齢者が想定される場合や、不特定多数の人を相手にする場合は特に、言い換えや説明付与が必要になる。 ・ 用法は多岐にわたっており、その他の言い換え語例に示す言い換え語が最適になる場合もある。文脈に応じて言い換え語を使い分ける工夫が望まれる。 ・ 言い換え語に「印象」「影響」を用いる場合、「強い印象」「強い影響」のように「強い」を付ける方が分かりやすい場合もある。 	
その他の言い換え語例	印象 影響 迫力	

【調査データ】

- 定着度は高い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、ほぼ横ばいである。2000年以後は、ゆるやかに減少している様子も読み取れる。

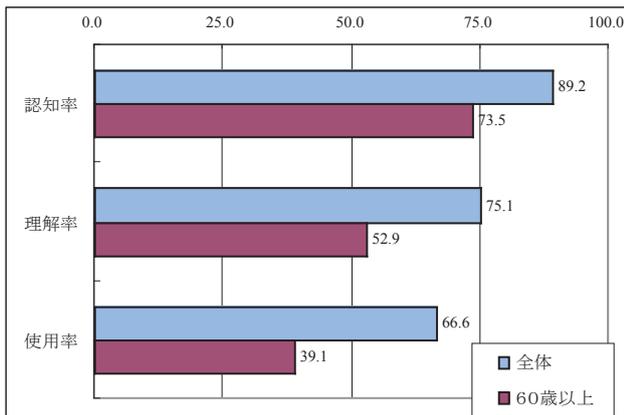


図1 定着度 (全体・60歳以上) %

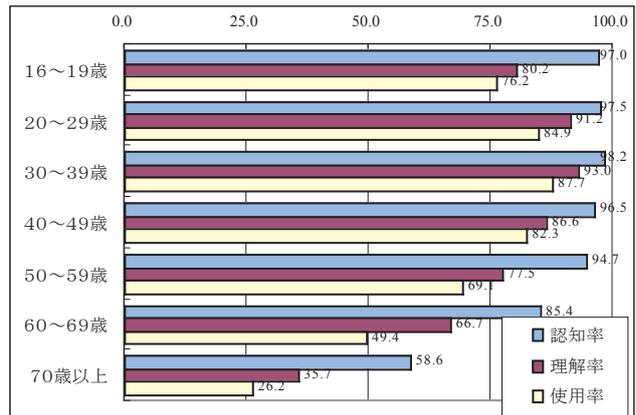


図2 定着度 (年齢層別) %

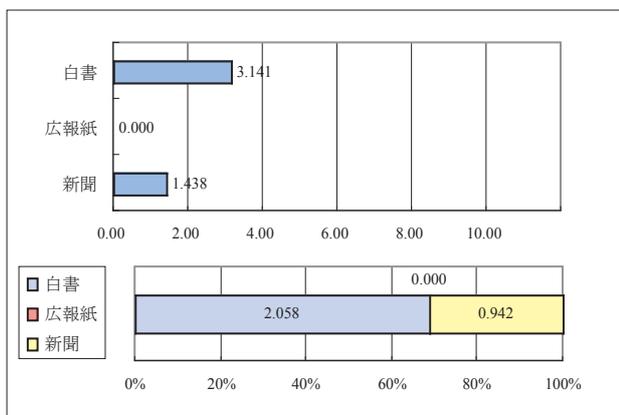


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

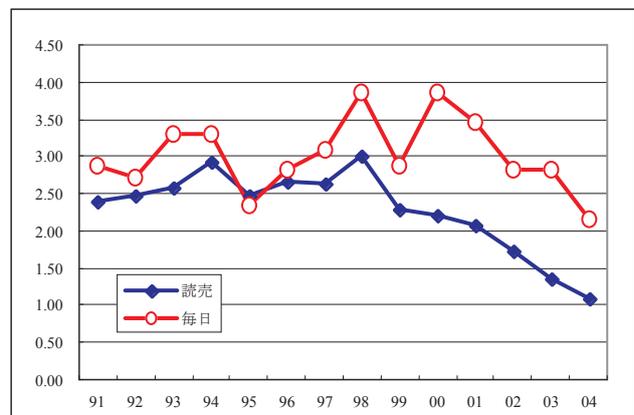


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

- 国民全体の理解度は★★★★であり、定着が十分であるとも考えられる。しかし、60歳以上の理解度は★★★☆にとどまり、この年齢層にとっては分かりにくい外来語である。
- 定着が進んでいる外来語であっても、年齢層によっては、言い換えや説明の必要のあることは、「外来語」言い換え提案の随所で強調している点である。第1回の提案で、この点を示す事例としてあえて言い換え対象に含めることにした。

22. インフォームドコンセント informed consent

「外来語」言い換え提案 (第1回)

	全体	60歳以上
インフォームドコンセント	★★★★	★★★☆☆
言い換え語	納得診療 説明と同意	
用例	この病院は納得診療を重視し、患者中心の医療の実践をうたっている。 子供の移植患者に対しての説明と同意インフォームドコンセントは昨春から一度でよいとされており、	
意味説明	十分な説明を受けた上での同意	

手引き

- ・1980年代から日本でも使われるようになった語で、1990年に日本医師会が、日本の医療への導入と普及の必要性を指摘したことなどをきっかけに、一般に広まり始めた。
- ・医療を中心に、現代社会における重要概念として、普及定着が望まれているが、現状では意味を理解している人は少ないので、言い換えや説明付与などの必要性は高い。
- ・診療場面において使われることが多く、患者の納得に基づく診療行為を表したい場合は、「納得診療」という言い換えが分かりやすい。また、患者の納得という行為を前面に出すことによって、患者の視点からこの概念を見ることを促す効果も期待でき、概念の普及にも役立つと考えられる。
- ・「説明と同意」という言い換え語が、この語の意味を端的に表しているが、より分かりやすく伝えるには、意味説明に示したような説明を付与することが必要である。

【調査データ】

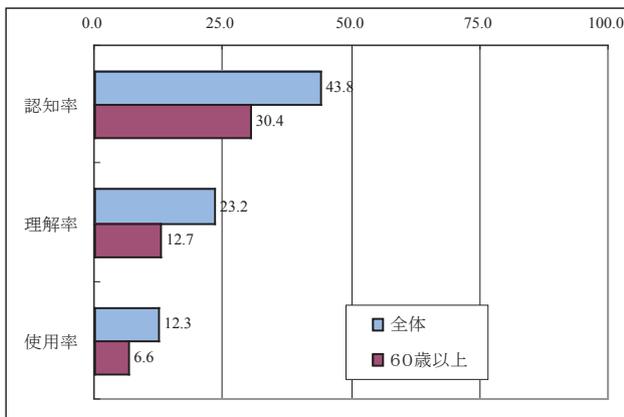


図1 定着度（全体・60歳以上）%

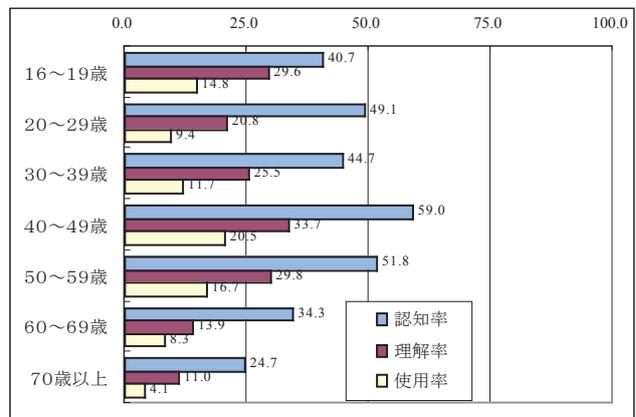


図2 定着度（年齢層別）%

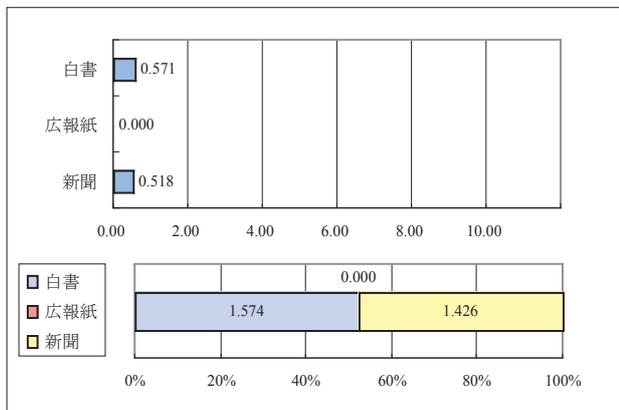


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

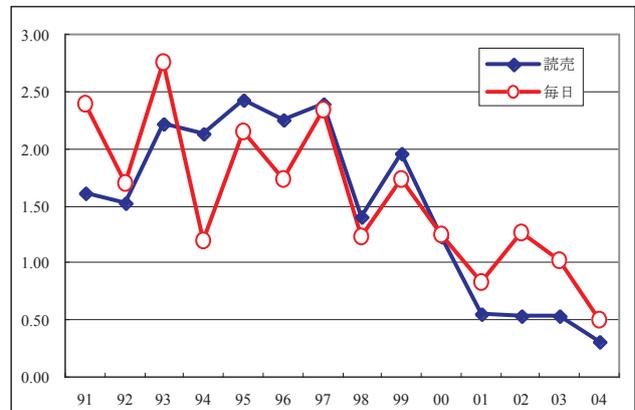


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。
- 新聞の頻度推移は、全体として減少の方向にある。

【背景事情】

- 1990年に日本医師会が、日本の医療への導入と普及の必要性を指摘したことなどがきっかけとなって、一般に広まりつつある。
- 新聞の頻度が近年減少傾向にあるのは、この語が日本語として使われなくなってきたことを示すのではなく、ニュースになる機会が減ってきているためだと考えられる。

【言い換えの論点】

- 「インフォームドコンセント」は、これからの日本の医療における重要な概念を示す語であり、その定着が望まれる。しかしながら、この外来語形は長く覚えにくく、日本医師会が示した「説明と同意」という訳語も、分かりにくい。概念の定着のためには、分かりやすい言い換え語を工夫することが不可欠である。
- 上記のような考えから、「納得診療」という言い換え語を新たに考案した。この新語には、次の二つの思いをこめた。まず、「診療」という語を含むことで、この概念が診療現場で問題になるものであることが示せるのではないかとということ。そして、「納得」という語を含むことで、患者が自ら主体的に理解を深め、選び取る診療という意味が伝えられること。「納得診療」は、「インフォームドコンセント」の直訳ではないが、概念の核心が分かりやすく伝わるのではないかと考えた。
- 「インフォームドコンセント」が常に「納得診療」と言い換えられるわけではなく、「説明と同意」という訳語が適切な場面や、より丁寧な説明を加えることが必要な場面も多い。それらのことを、[手引き]に記した。

→参照 セカンドオピニオン

23. インフラ infrastructure（省略）

「外来語」言い換え提案（第2回）

	全体	60歳以上
インフラ	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	社会基盤	
用例	社会基盤 下水道や土地改良など市民生活にとって大切なインフラの整備に大いに努力された。	
意味説明	交通、通信、電力、水道、公共施設など、社会や産業の基盤として整備される施設	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・「インフラストラクチャー」の略だが、一般には略語「インフラ」の方がよく使われる。 ・産業の基盤になる施設を指す場合は、「産業基盤」と言い換えるのが適切である。 ・分野を限定して整備される基盤を指す場合は、「交通基盤」「通信基盤」「金融基盤」などと、何の基盤であるかを具体的に示して言い換えるのが分かりやすい。何の基盤かが文脈から明確である場合は、単に「基盤」と言い換えてもよい。 	
その他の言い換え語例	産業基盤 交通基盤 通信基盤 金融基盤 基盤	

【調査データ】

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度はきわめて高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移は、1990年代後半に増加し、その後はゆるやかな減少の方向にある。

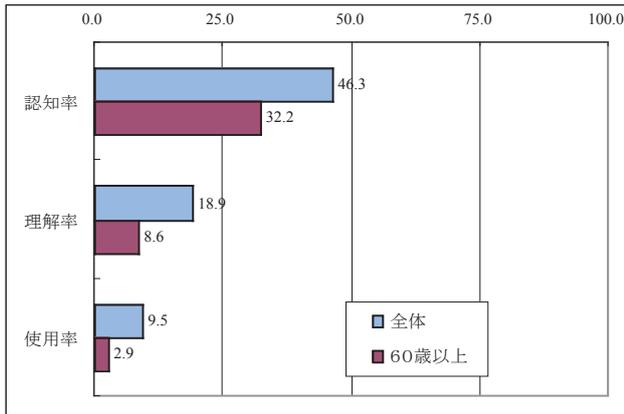


図1 定着度（全体・60歳以上）%

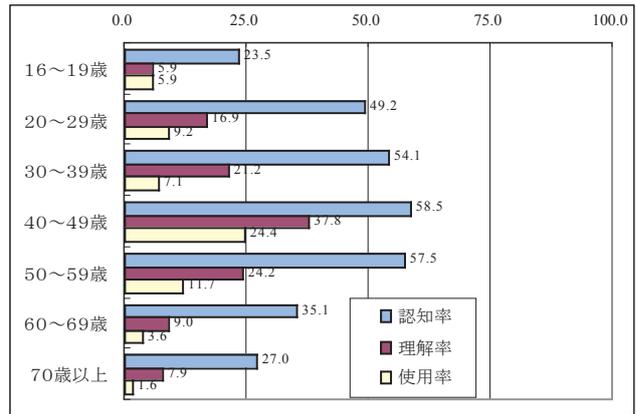


図2 定着度（年齢層別）%

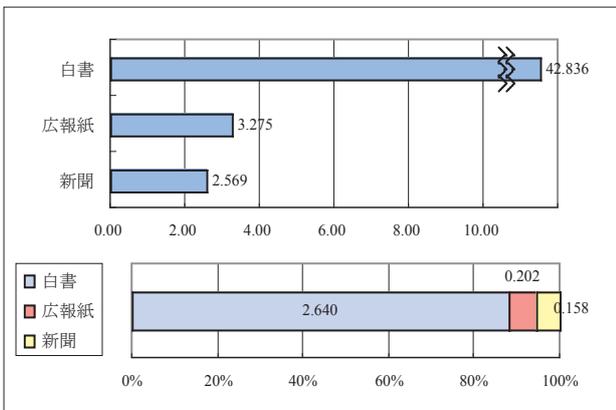


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

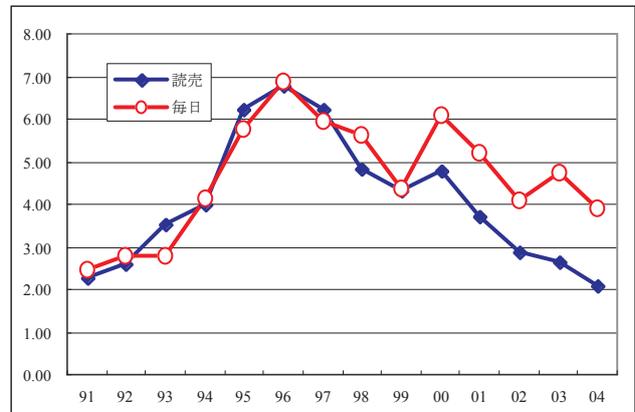


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○「社会基盤」という言い換え語だけでは、「インフラ」の意味を伝えられないという意見もあった。何の基盤であるかを具体的に示して言い換えたり説明したりする方が、分かりやすい場合もあることを、[手引き]に記した。

24. エンパワメント empowerment

「外来語」言い換え提案（第2回）

	全体	60歳以上
エンパワメント	★★★★	★★★★
言い換え語	能力開化	権限付与
用例	<p>開発途上国の女性のエンパワメントには特に教育が不可欠とされ、会議では開発援助における教育のあり方が議論になった。</p> <p>女性や社会的に不利な立場にある人々へのエンパワメントは、彼らの経済的な機会の拡大につながる。</p>	
意味説明	<p>本来持っている能力を引き出し、社会的な権限を与えること</p>	

手引き

- ・ 開発援助や女性運動の分野でよく使われる。能力を引き出す側面に焦点を合わせる場合は「能力開化」、権限を与える側面に焦点を合わせる場合は「権限付与」と言い換えることができる。
- ・ 権限の大きいところから権限の小さいところに、権限を移すことを指して使われることもあり、その場合は「権限委譲」という言い換え語が適切になる。
- ・ 「〇〇のエンパワーメント」を、「権限付与」「権限委譲」で言い換える場合は、「〇〇への権限付与」「〇〇への権限委譲」とするのが良い。

その他の言い換え語例

権限委譲

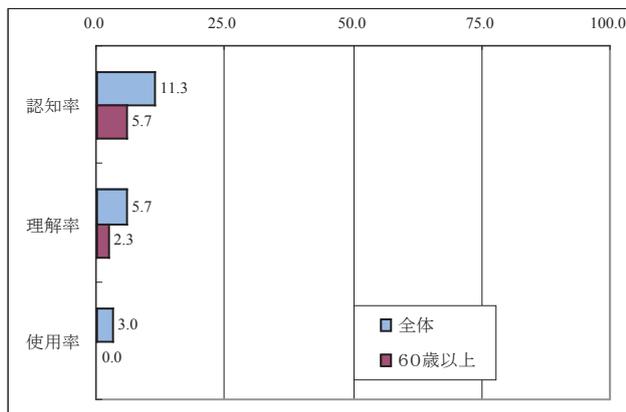
【調査データ】

図1 定着度（全体・60歳以上）%

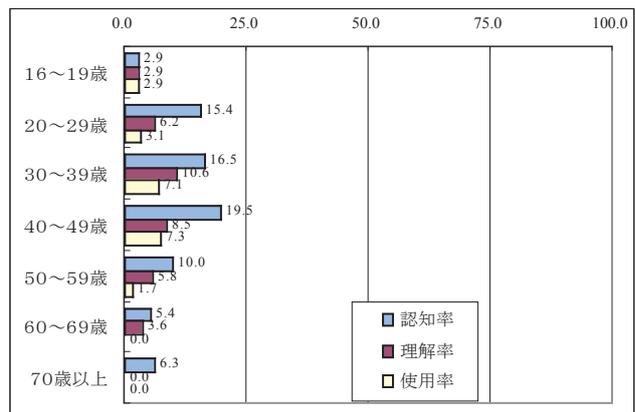


図2 定着度（年齢層別）%

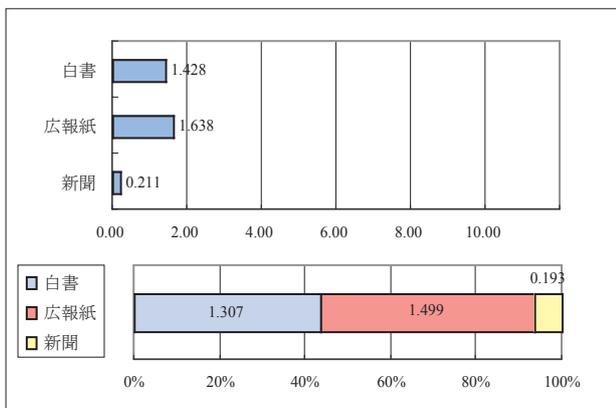


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

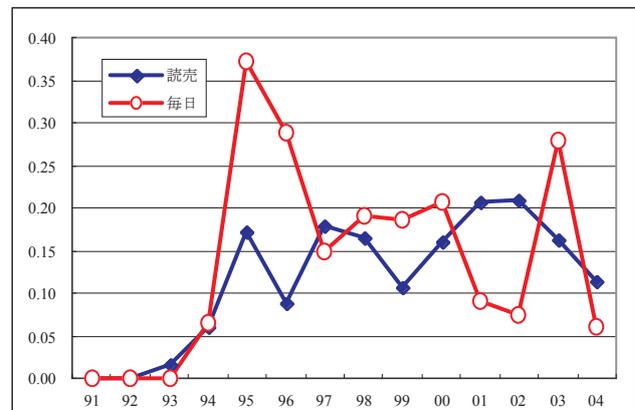


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。
- 新聞の頻度推移では、1994年頃から例が見え、低頻度ながらほぼ横ばいの状況である。

【背景事情】

- 「女性のエンパワーメント」という文脈で用いられることが最も多く、女性の能力を引き出し、社会的な権限を強めていこうとする運動を表す言葉として用いられる。男女共同参画に関わる政策の用語としてよく用いられるため、白書や広報紙に多いのだと考えられる。
- 新聞の頻度で1995年がやや突出しているのは、この年の「第5回世界女性会議 北京宣言」で「女性のエンパワーメント」がうたわれたことが、話題になったことによる。この会議以後、「エンパワーメント」の語が日本でも広まり始めた。

【言い換えの論点】

○「エンパワーメント」が表す概念には、本来ある能力を引き出す側面と、それを通して社会的な権限を強める側面とがある。それぞれの側面について、言い換え語を示した。

25. エンフォースメント enforcement

「外来語」言い換え提案（第2回）

	全体	60歳以上
エンフォースメント	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	法執行	
用例	各国の代表者から、それぞれ最近の法改正の状況や <u>法執行</u> や <u>エンフォースメント</u> の状況等について報告がなされます。	
意味説明	法律などを実際に守らせるようにすること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・法律以外について使われる場合もあるが、その場合は「執行」あるいは、何についての執行であるかを「○○」に示して、「○○執行」「○○の執行」などと言い換えることができる。 ・法律などを適用して犯罪を取り締まることを指すときなど、「取り締まり」と言い換える方が分かりやすい場合もある。 ・力によって平和を強制する場合に使われる際には、「強制」と言い換えるのが適切である。 	
その他の言い換え語例	執行 取り締まり 強制 強制執行	
複合語例	法のエンフォースメント = 法執行 ピースエンフォースメント = 平和強制	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度はやや低い。
- 新聞には、ほとんど使用例がないため、推移の傾向を見ることはできない。2003年にやや多いのは、「外来語」言い換え提案に関わる記事の例である。

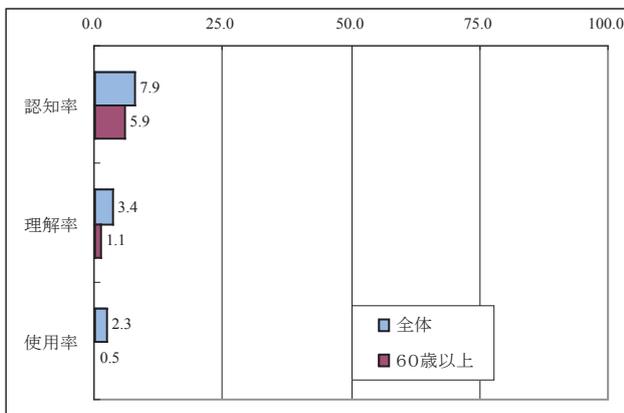


図1 定着度（全体・60歳以上）%

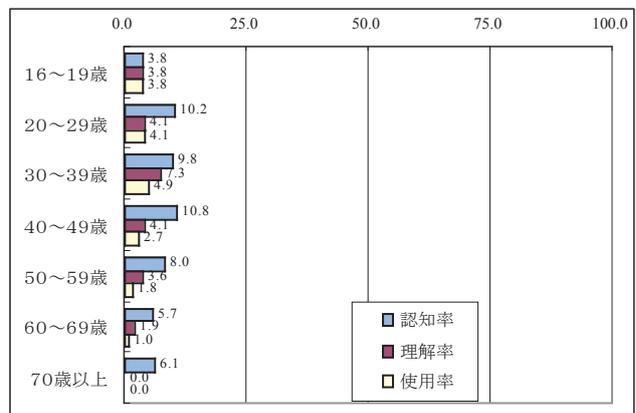


図2 定着度（年齢層別）%

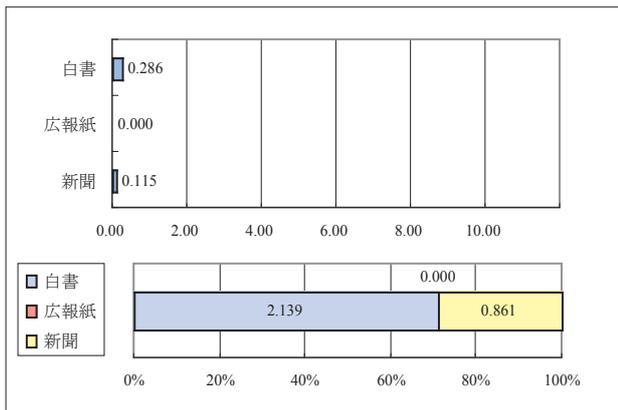


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

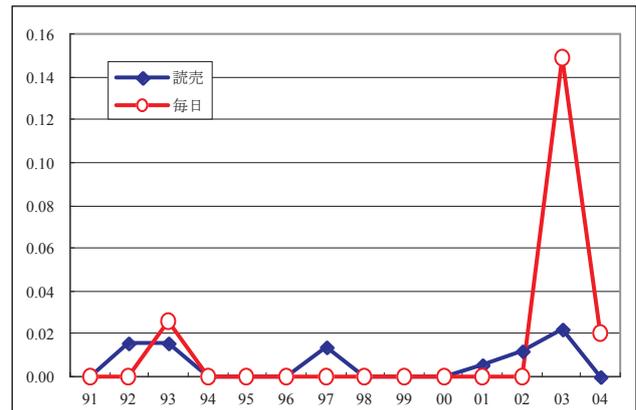


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

- 新聞や広報紙にほとんど例がなく、国民の目に触れる機会は少なく、提案で取り上げる必要性は低いという意見もあった。しかし、白書には例があり、役所では使われているので、取り上げることにした。
- 「法執行」では言い換えられない文脈や場面も多く、いくつかの言い換え語を使い分ける必要があることを、[手引き]などで示した。

26. オーガナイザー organizer

「外来語」言い換え提案(第4回)

オーガナイザー	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	まとめ役	
用例	協力体制を築くには、一つの組織にとらわれない視野を持った優れたまとめ役オーガナイザーの存在が求められる時代になるように思う。	
意味説明	複雑な組織や企画をうまくまとめて運営する人	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈によっては、「世話役」という言い換えが適切になる場合がある。 ・「オルガナイザー」という語形で用いられる場合があるが、意味は同じである。 	
その他の言い換え語例	世話役	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度はきわめて低い。
- 新聞の頻度はきわめて低いため、推移の傾向を見ることはできない。

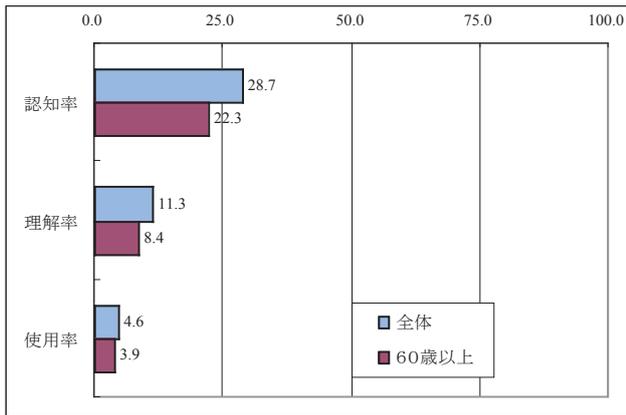


図1 定着度（全体・60歳以上）%

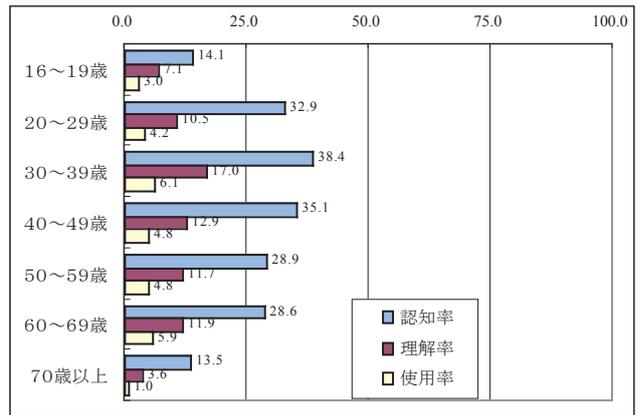


図2 定着度（年齢層別）%

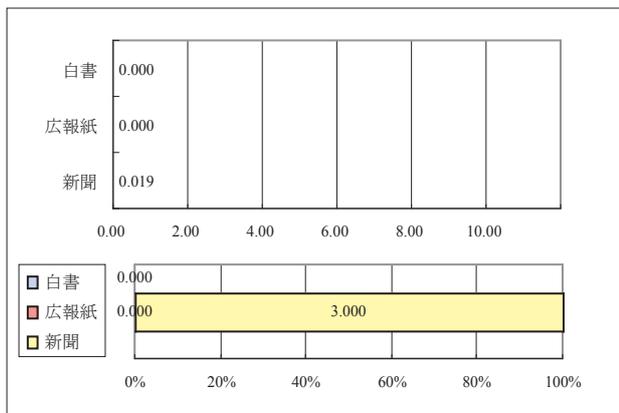


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

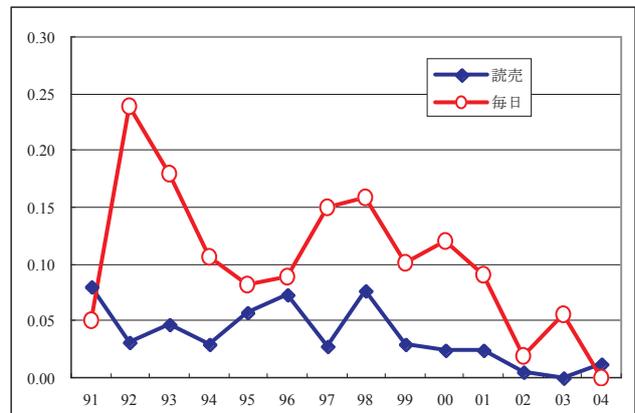


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○コンピューター上で情報の整理を行うソフトウェアを指す用法もあるが、公共媒体での使用例は少ないので、言及しなかった。

27. オーナーシップ ownership

「外来語」言い換え提案（第4回）

	全体	60歳以上
オーナーシップ	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	(1) 所有権	(2) 主体性
用例	<p>所 有 権</p> <p>(1) 国有から民有へのオーナーシップの変更が経営成果の改善の主因であるのか</p> <p>主 体 性</p> <p>(2) 被援助国政府のオーナーシップの下、援助国や国際機関との間で、密接な情報共有と意見交換を行い、</p>	
意味説明	<p>(1) 経営などにおいて、所有者である権利</p> <p>(2) 援助に頼らず、自立して主体的に取り組むこと</p>	

手引き

- ・(1)で所有者であるという意識を指すことがあるが、その場合は「所有者意識」と言い換えると分かりやすい。
- ・(2)は、途上国に対する開発援助にかかわる外交分野でしばしば用いられる。途上国自身が開発の主体であることを意識した取組を指し、それを支援する国際社会の協力関係を指す「パートナーシップ」[⇒107]の語と対になって使われることが多い。
- ・(2)で自分の問題であるという意識を指すことがあるが、その場合は「当事者意識」、そうした意識を持って自ら努力することを指す場合は「自助努力」と言い換えると分かりやすい。

その他の言い換え語例

(1) 所有者意識 (2) 当事者意識 自助努力

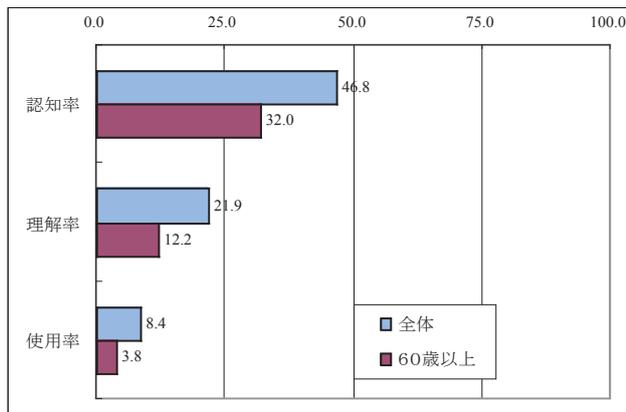
【調査データ】

図1 定着度(全体・60歳以上) %

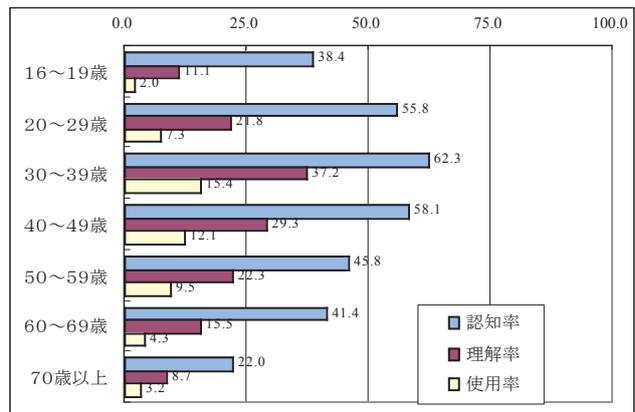


図2 定着度(年齢層別) %

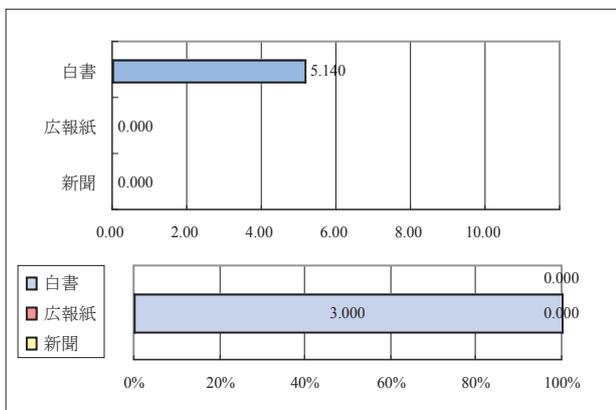


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

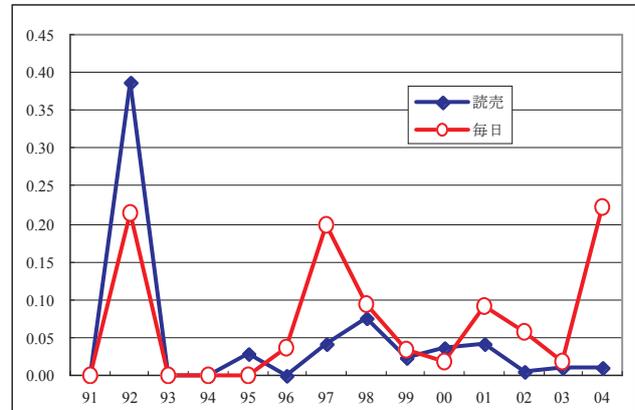


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。理解率と使用率の乖離はかなり大きい。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、きわめて低いので、推移の傾向を見ることはできない。1992年、1997～1998年など、やや頻度の高い年が見られるが、米国の制度や委員会の名称が、ニュースに取り上げられている例であり、日本語の外来語として用いられているものは少ない。

【言い換えの論点】

- 白書に多いが、政府開発援助(ODA)白書、外交青書の二つに偏在しており、外交分野の専門用語としての性格が強い。この場合、(2)の語義で使われている。一方、新聞に時折見られる米国の話題の中で用いられるのは(1)の語義であり、英語を理解する日本人も、多くはこの語義を思い浮かべるものと考えられる。公共媒体では、二つの語義がほとんど接点なく用いられているので、言い換えも語義別に行うのが適切であると考えた。

28. オピニオンリーダー opinion leader

「外来語」言い換え提案（第1回）

オピニオンリーダー	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	世論形成者	
用例	戦後しばらくの日本では政治学者が世論形成者として活躍し、ジャーナリズムに大きな影響を与え続けた。	
意味説明	世論に影響力を持つ人	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> 世論を導く面に着眼して「世論主導者」「世論リーダー」などと言い換えたり、また、影響力のある意見を述べる面に着眼して「論客」と言い換えたりするのも、分かりやすい。 人に限らず、新聞など、世論や社会の動きに影響力のある機関や集団を指すこともある。その場合は、「世論に影響力を持つ機関（集団）」など、説明方法を工夫したい。 	
その他の言い換え語例	世論主導者 世論リーダー 論客	

【調査データ】

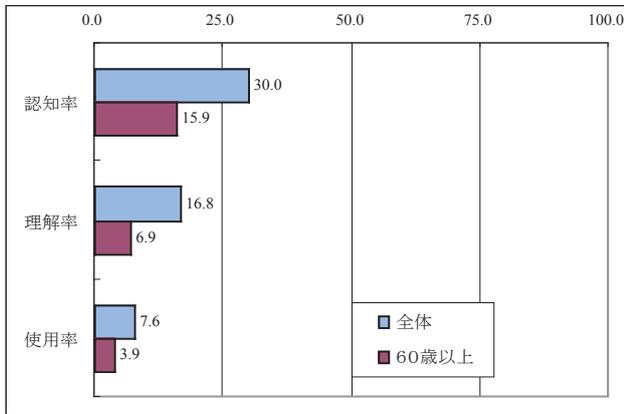


図1 定着度（全体・60歳以上）%

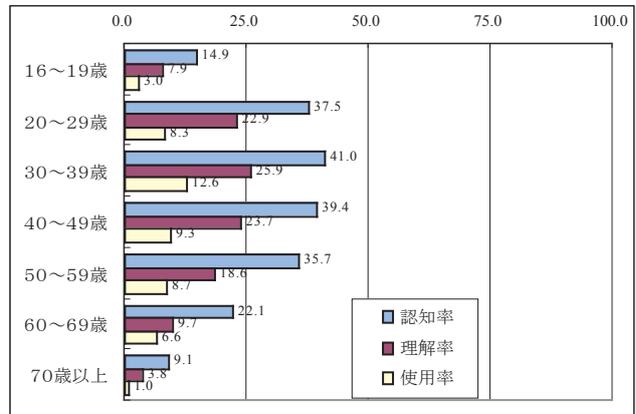


図2 定着度（年齢層別）%

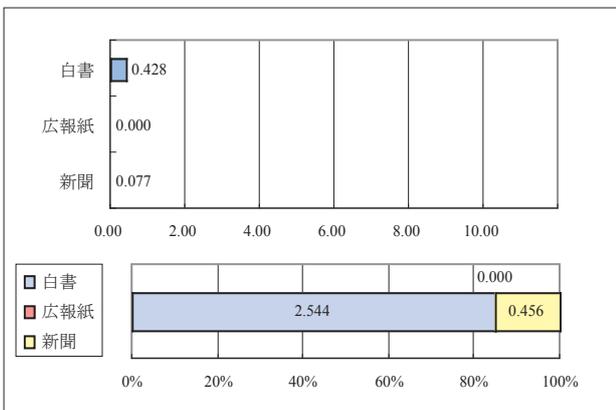


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

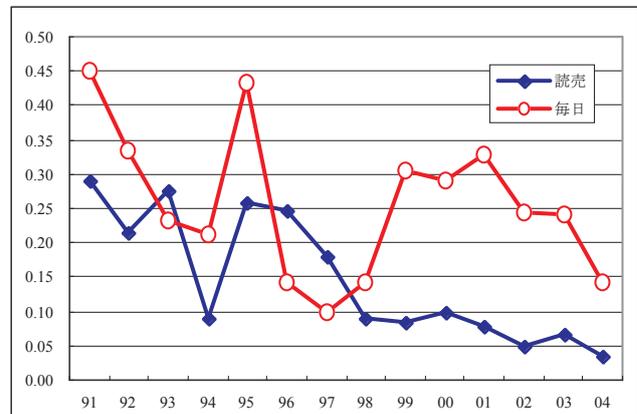


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度は低い。理解率と使用率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、2000年代になって減少の方向が明らかになる。

【言い換えの論点】

- 「オピニオンリーダー」を直訳した「世論先導者」の言い換え語も検討したが、「先導」が「扇動」と同音になり、また、その音からは、「世論」との結びつきが強固な「扇動」がまず想起されるため、不適切だと考えた。「主導」の語もやや分かりにくく、意識して「世論形成者」を言い換え語とした。

29. オブザーバー observer

「外来語」言い換え提案（第2回）

	全体	60歳以上
オブザーバー	★★☆☆	★★☆☆
言い換え語	(1) 陪席者	(2) 監視員
用例	<p>(1) 日本も米国、カナダとともに<u>陪席者</u>オブザーバーとして起草に向けた協議に参加してきた。</p> <p>(2) 新たに両国の漁船に相手国側の<u>監視員</u>オブザーバーが一部乗船することなどが決まった。</p>	
意味説明	<p>(1) 会議などで、議決権はないが、ある目的のために参加を許された人</p> <p>(2) 国際間の取決めなどにおいて、ルールが正しく守られているかを監視する人</p>	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・(1) は、「陪席」のほか、指し示す内容に応じて、意見を述べる参考人を表す「意見参考人」、傍聴するだけの「傍聴人」と言い換えることができる場合もある。(1)(2) いずれも、文脈によって英語observerの原義に近い「観察者」で言い換えることのできる場合もある。 ・(2) は、監視する人の役割に応じて、「監督者」「審判員」「視察者」などもあわせて、使い分けたい。 	
その他の言い換え語例	<p>(1) 意見参考人 傍聴人 観察者</p> <p>(2) 監督者 審判員 視察者 観察者</p>	
複合語例	<p>(1) オブザーバー参加 = 陪席参加 傍聴参加</p> <p>オブザーバー資格 = 陪席資格 傍聴資格</p>	

【調査データ】

- 定着度は中程度だがどちらかといえば低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、ゆるやかな減少傾向にある。

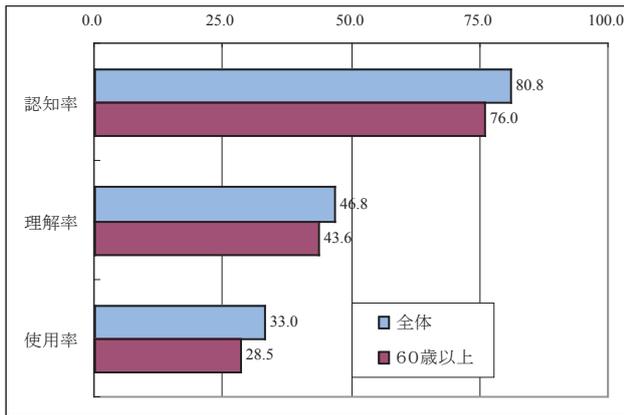


図1 定着度（全体・60歳以上）%

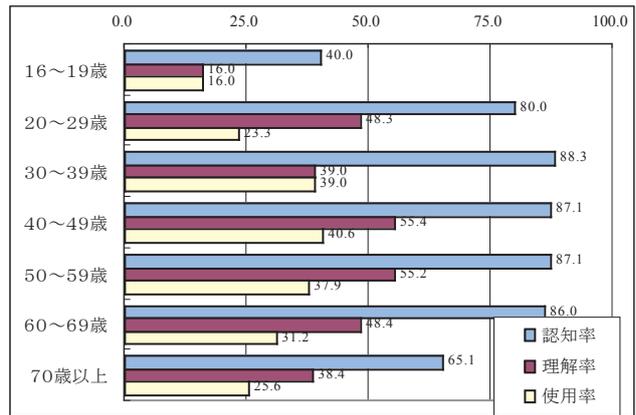


図2 定着度（年齢層別）%

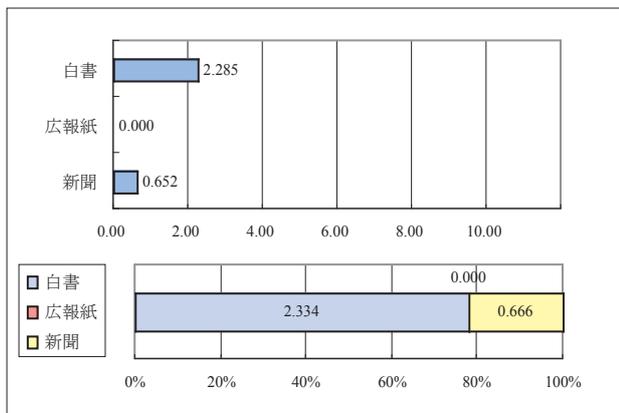


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

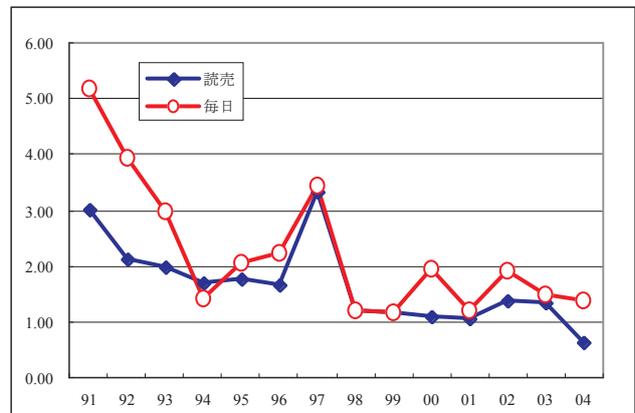


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

- 「オブザーバー」は、場面や文脈によって多様な意味になるので、いくつかの言い換え語を示し、場面や文脈に応じてそれらを使い分ける必要がある。
- 語義（2）は、職業あるいは資格を表し、語義（1）とは区別される。また、語義（2）の定着度は、語義（1）よりも格段に低いと考えられる。定着に向かう可能性のある（1）とは区別して言い換えなどの対応を行う必要がある。

30. オフサイトセンター off-site center

「外来語」言い換え提案（第4回）

	全体	60歳以上
オフサイトセンター	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	原子力防災センター	
用例	原子力防災センター オフサイトセンターの訓練では、国が原子力緊急事態宣言を発令、防護対策の実施を指示した。	
意味説明	原子力事故が発生した際に、現地で情報収集や避難指示などの対策を講じる機関	

手引き

- ・1999年に制定された「原子力災害対策特別措置法」によって、原子力施設の周辺に設置されることになった「緊急事態応急対策拠点施設」を指して「オフサイトセンター」と言われる。
- ・原子力災害に関することが文脈から明らか場合は、「現地防災センター」「現地対策拠点」あるいは「応急対策拠点」などの語で言い換えることもできる。
- ・より詳しい説明や言い換えが必要な場合は、「原子力災害現地対策拠点」の語を用いたり、また、「原子力災害の際の現地対策拠点」などということもできる。
- ・名称の中に「オフサイトセンター」を含む施設の場合は、必要に応じて原子力の防災施設であることが分かる説明を付けるなどの配慮も望まれる。

その他の言い換え語例

緊急事態応急対策拠点施設 原子力災害現地対策拠点

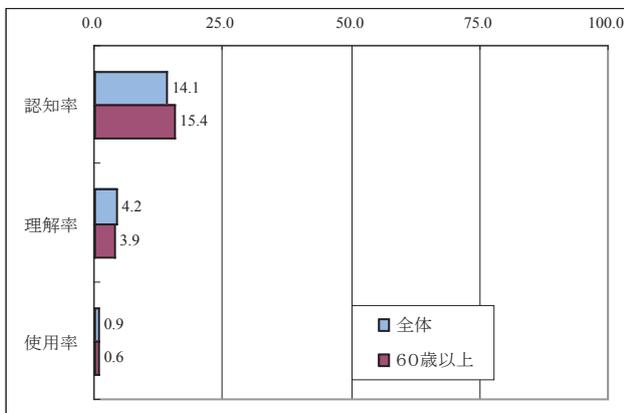
【調査データ】

図1 定着度（全体・60歳以上）%

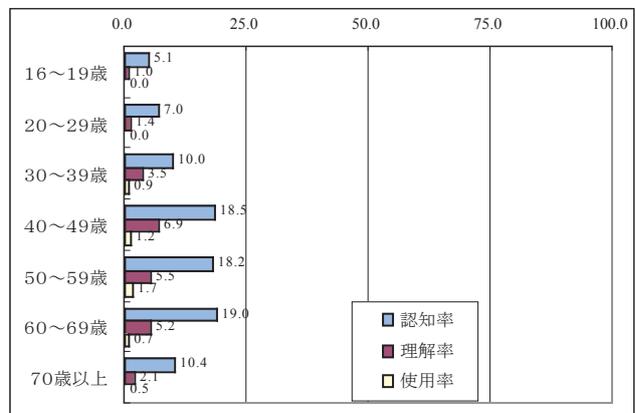


図2 定着度（年齢層別）%

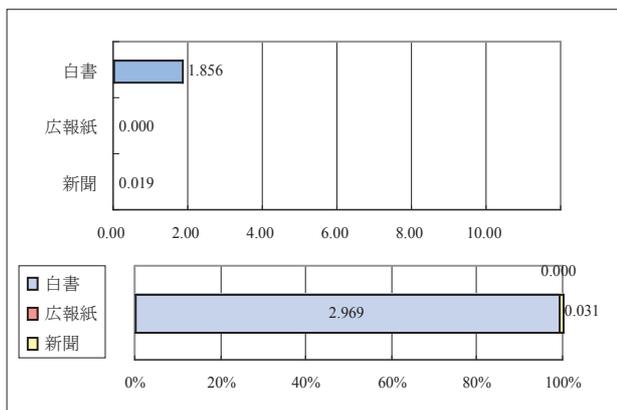


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

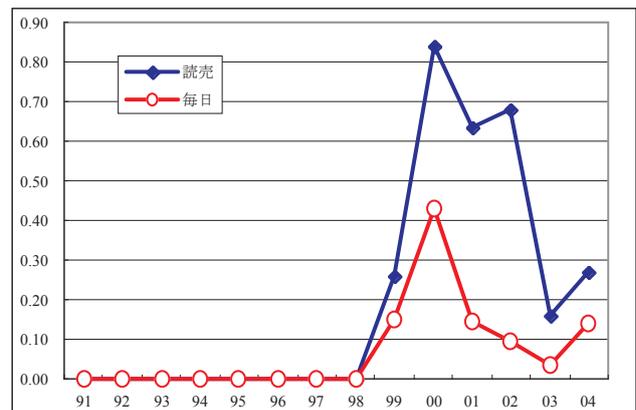


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度は、きわめて低い。認知率と理解率の乖離がきわめて大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度はきわめて低く、全体的な推移の傾向を見ることは難しい。ただ、1999年に初めて現れ、2000年に急増し、2001年以降は減少していく様子は、見て取れる。

【背景事情】

- 1999年に起きた茨城県東海村の臨海事故を受けた「原子力災害対策特別措置法」の制定・施行の動きの中で、よく話題になった。

- 上記の法律では、原子力施設の近くにあらかじめ「オフサイトセンター」を設置して、事故発生時の拠点とすることが規定されている。この法律の条文中では「緊急事態応急対策拠点施設」とされるが、一般には「オフサイトセンター」という通称がよく用いられる。
- 上記の法律によって、各地に「〇〇オフサイトセンター」という名称の機関が設置された。その機能をもつ機関の中には、「〇〇原子力防災センター」「〇〇原子力災害対策センター」などの名称を持つものもある。

【言い換えの論点】

- 原子力の防災施設であることが分かる言い換え語が必須であると考えた。
- 「オフサイト」という外来語は、今回の公共媒体の調査では、「オフサイトセンター」以外の使用例は見つからなかった。このような、国民になじみのない外来語を、公共的な施設の名称とするのは、問題がある。命名を行う時点での配慮が望まれる。「オフサイトセンター」をその名に含む施設に言及する場合は、原子力の防災施設であることが分かる説明を付ける必要のあることを、[手引き]で言及した。

31. オペレーション operation

「外来語」言い換え提案（第4回）

	全体	60歳以上
オペレーション	★★★★☆	★★☆☆☆
言い換え語	(1) 公開市場操作 (2) 作戦行動	
用例	(1) 中央銀行の最大の政策手段は国債などの公開市場操作のオペレーションによる資金の供給や吸収である。 (2) 開戦となれば壮大な作戦行動のオペレーションになる。	
意味説明	(1) 中央銀行が証券などを売買して市場を操作する金融調節 (2) 軍事、政治、経営などにおける作戦の実施	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)は、中央銀行による市場操作を指す「オープンマーケットオペレーション」を略した語形として、よく使われる。 ・(2)で、軍事について使われる場合は「軍事行動」と言い換えるのも分かりやすい。また、文脈によっては単に「作戦」と言い換える方が分かりやすい場合もある。 ・航空機の運航管理を行う本部を「オペレーションセンター」という場合があるが、分かりにくい向きに対しては、「運航管理センター」などと説明を付けるのが良い。 ・白書・新聞など公共性の高い媒体では、上記の意味で使われる場合がほとんどであるが、専門分野によっては、業務の様態に応じて、「操作」「作業」といった意味で用いられる場合も多い。 ・定着に向かっている語だと思われ、「オペレーション」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。 	
その他の言い換え語例	(2) 軍事行動 作戦	
複合語例	(2) オペレーションセンター = 作戦本部 運航管理センター	

【調査データ】

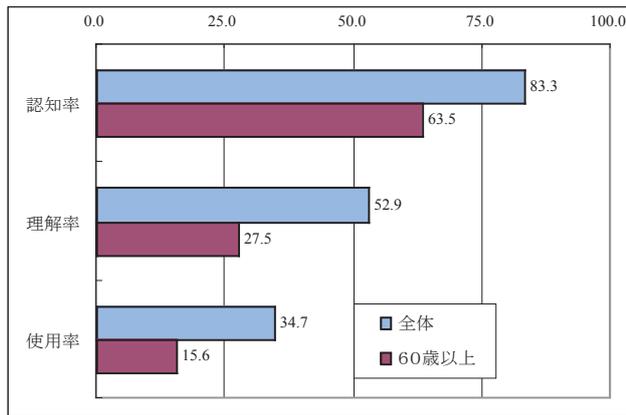


図1 定着度（全体・60歳以上）%

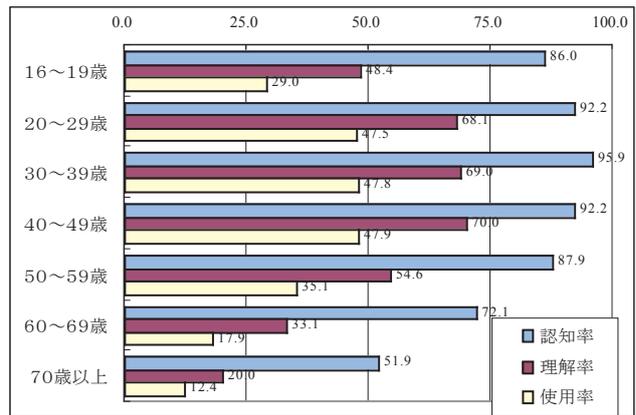


図2 定着度（年齢層別）%

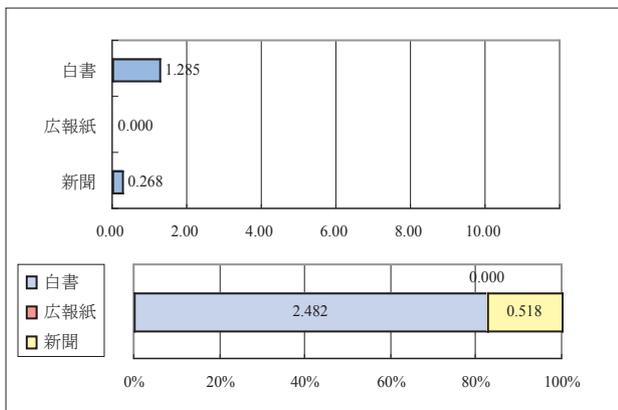


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

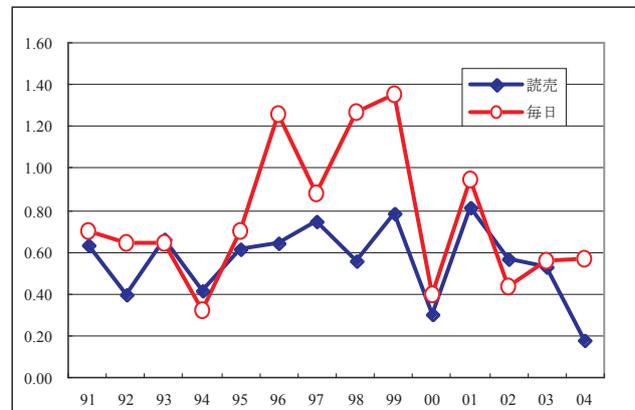


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移は、毎日新聞で1990年代後半に多くなっている時期があるが、重大事件の発生などで、首相が外務省オペレーションルームに出入りする機会が増加した事情によるものである。それ以外は、ほぼ横ばいである。

【背景事情】

- 定着度調査のデータは、下の【言い換えの論点】で記す、業界における日常的な用語としての「オペレーション」についてのものである可能性もある。公共媒体でよく使われる、「公開市場操作」「作戦行動」の意味で、どれだけ定着しているかは、意味を限定して、改めて調査を行う必要がある。

【言い換えの論点】

- 公共媒体ではないところでは、オペレーションは、「操作」「作業」の意味でよく用いられている。特に、様々な業界で日常的に行われている操作や作業を、「オペレーション」という習慣は強い。しかし、公共媒体では、上記のような意味で用いる例は少なく、「公開市場操作」「作戦行動」の意味で用いられることが一般的である。
- 本提案では、公共媒体での使われ方を対象としているので、「公開市場操作」「作戦行動」の意味を中心に扱い、「操作」「作業」の意味は「手引き」で言及した。

32. オンデマンド on demand

「外来語」言い換え提案（第1回）

	全体	60歳以上
オンデマンド	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	注文対応	
用例	デジタル化を軸にした印刷技術の進歩で高速大量印刷の時代は終わり、必要な人に必要な部数だけ印刷する注文対応のオンデマンドの時代が来ると予測する。	
意味説明	注文に応じて速やかにサービスを提供すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> インターネットの普及とともに、1990年代半ばから一般に用いられ始めた。「デマンド」は「要求」、「オンデマンド」は「要求があればすぐに」という意味で、インターネットを通して受けた注文に応じたサービスを指すことが多い。 注文に即応することを売りとするサービスを指す場合もあり、その場合は、その他の言い換え語例に示すように、「注文即応」などの言い換え語を使うことも考えられる。 	
その他の言い換え語例	受注対応 注文即応 受注生産	
複合語例	オンデマンド出版 = 注文出版 オンデマンド印刷 = 注文印刷	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度は低い。
- 新聞の頻度推移によると、登場してすぐの1994年に急増した後は、減少を続けている。

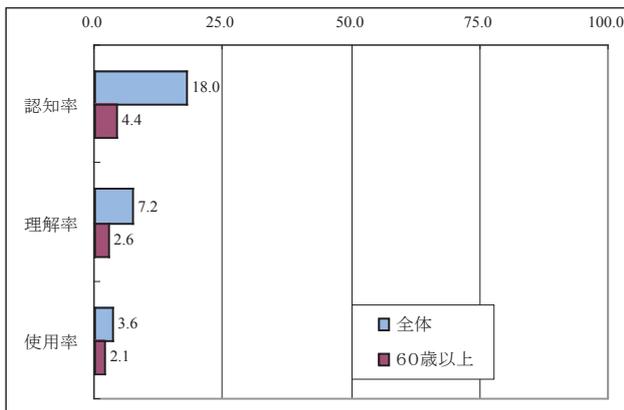


図1 定着度（全体・60歳以上）%

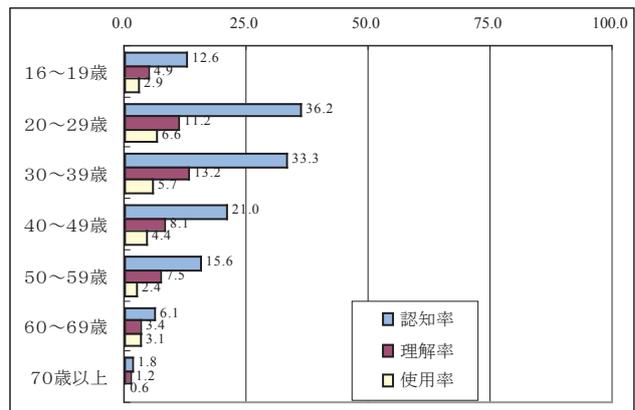


図2 定着度（年齢層別）%

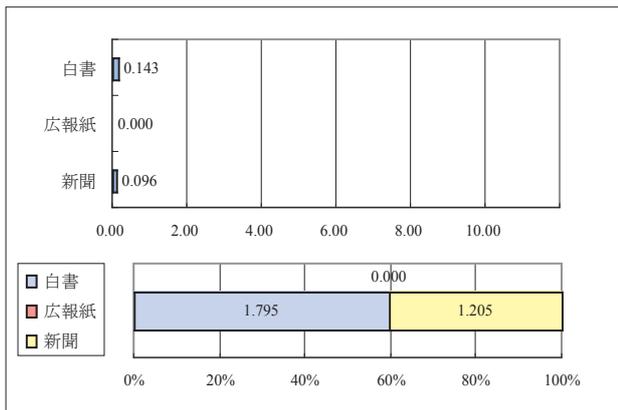


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

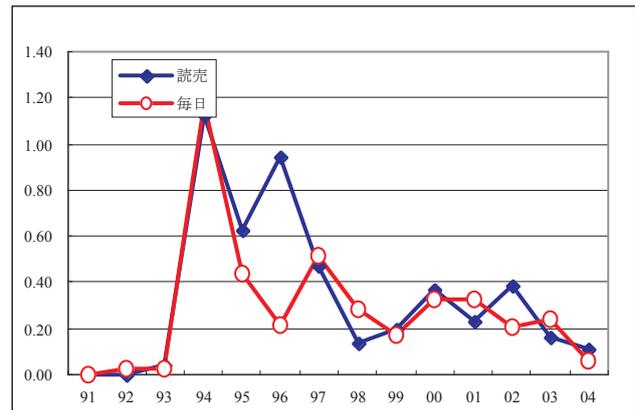


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【背景事情】

○新聞で頻度が急増する1994年の例の大半は、「ビデオ・オンデマンド」である。これは、ケーブルテレビ網などを通じて、見たいときにいつでも映画などを放送するサービスを指した。その後、インターネットの普及に伴い、「オンデマンド」の概念自体が、目新しいものではなくなっていくのに伴い、この語が、新聞で使われることも減少してきていると考えられる。

【言い換えの論点】

○「オンデマンド」には、注文の都度対応する意味と、注文を受けて速やかに対応する意味とが含まれている。対応の速やかさよりも、注文に応じたその場の対応の方が、より基本的な意味だと考え、「注文対応」を言い換え語とした。速やかさを前面に出した「注文即応」は、[その他の言い換え語例]に掲げた。

33. ガイドライン guideline

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
ガイドライン	★★★★☆	★★★☆☆
言い換え語	指針	
用例	将来はすべての大学病院が公的な共通の <u>ガイドライン</u> によって医療に当たるよう望みたい。	
意味説明	政治や業務などを具体的に運用する際に守られるべき指針や手引き	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・何についての指針であるかが分かるように、「診療指針」「指導指針」などのように「○○指針」の形で言い換えたり説明を付けたりする方が分かりやすい場合もある。 ・特に、「日米防衛指針」を指して、固有名詞として「ガイドライン」と言われることもあるが、この場合は「ガイドライン(日米防衛指針)」のように、説明を付けて用いるのが望ましい。 ・定着に向かっている語だと思われ、「ガイドライン」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。 	
その他の言い換え語例	運用指針 手引き	

【調査データ】

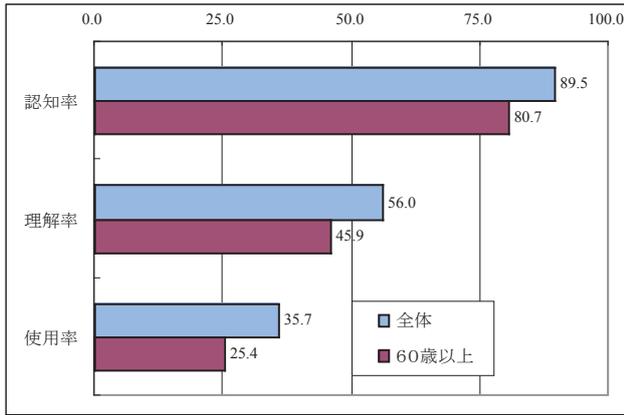


図1 定着度（全体・60歳以上）%

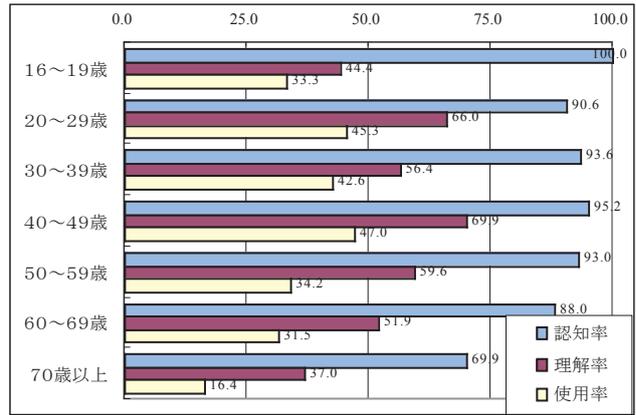


図2 定着度（年齢層別）%

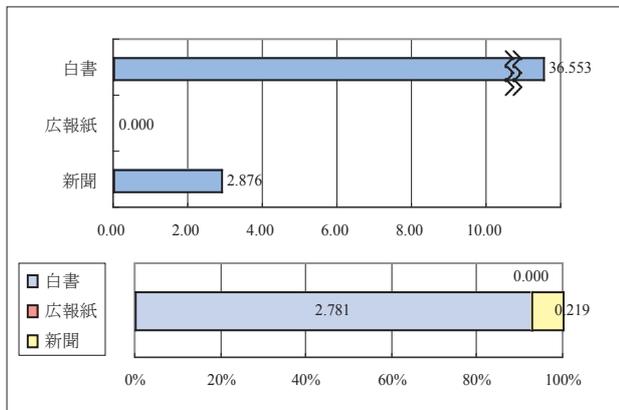


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

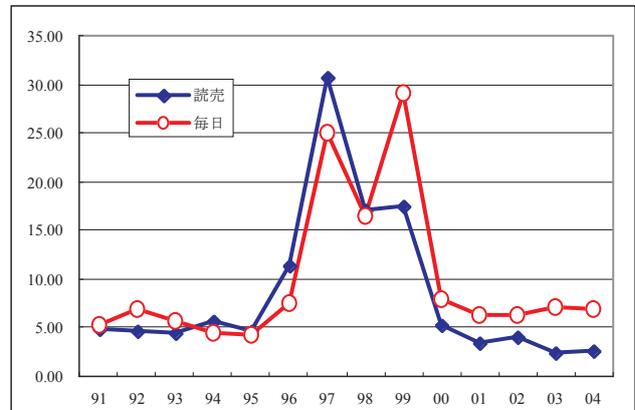


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度はきわめて高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移は、1997年から1999年に極端に多いが、それ以外の年では、ほぼ横ばいである。

【背景事情】

- 新聞で1997年から1999年に極端に使用例が多いのは、「日米防衛指針」を指す「ガイドライン」の使用例が多いことによるものである。1999年5月に成立した「日米防衛協力のための指針（ガイドライン）」をめぐって、多くの報道が行われたためである。「日米防衛指針」を指すもの以外の頻度は、大きな変動はない。

【言い換えの論点】

- 言い換え語は「指針」が定着してきているが、「基準」の方が、「ガイドライン」の意味をよく表しているという意見もあった。また、規制力の強弱によって「指針」と「目安」を使い分けるべきという意見もあった。現状では、「ガイドライン」の意味ともっともよく対応するのは「指針」であるが、「基準」から「目安」の間で、意味の振幅のあることがうかがわれる。
- 何かを運用する際に参照されるべき指針を指す場合もあり、その際は「運用指針」「手引き」と言い換える方が分かりやすいことを、[手引き]で言及した。

34. カウンターパート counter part

「外来語」言い換え提案（第3回）

全体
60歳以上
☆☆☆☆
☆☆☆☆

カウンターパート 対応相手

言い換え語 対応相手

用例 対 応 相 手
 国務副長官は外相のカウンターパートではないとの論理があるのかもしれない。

意味説明
 交渉や共同作業を進める際の、互いに対等な地位にある相手

手引き

- ・ 同格であることを明示したい場合は「同格対応相手」「同格者」と言い換えることもできる。また、文脈によっては、単に「相手方」と言い換えることができる場合もある。
- ・ 国際協力や国際的な共同作業などを行う際、現地での受入れを担当する人や機関を指して「カウンターパート」と言われることもあるが、その場合は「受け入れ担当者」「受け入れ担当機関」と言い換えるのが分かりやすい。

その他の言い換え語例 同格対応相手 同格者 相手方 受け入れ担当者 受け入れ担当機関

【調査データ】

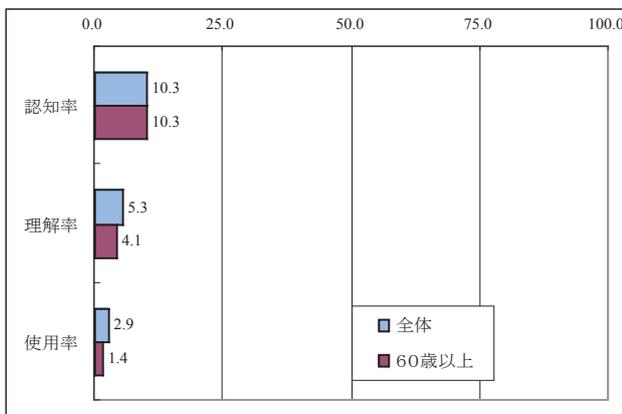


図1 定着度（全体・60歳以上）%

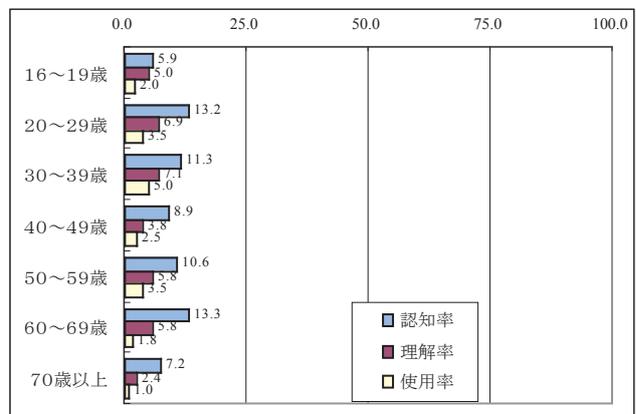


図2 定着度（年齢層別）%

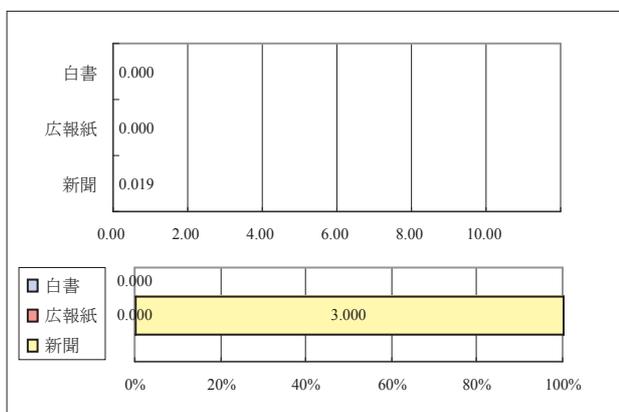


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

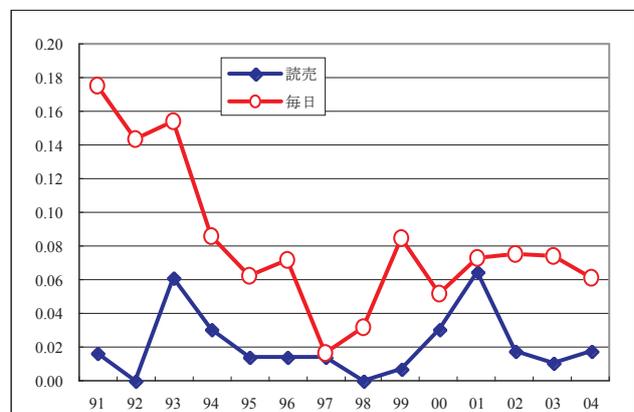


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度はきわめて低い。新聞への偏在度が高い。
- 新聞の頻度はきわめて低いため、推移の傾向を見ることはできない。

【言い換えの論点】

○ 2003年版にはなかったが、他の年次の白書には、国際協力や国際援助において現地での受け入れを担当する人や機関を指して、「カウンターパート」が使われる場合が、少なくない。これは、外交分野の専門語としての性質が強いので、別に言い換え語をあてるのが分かりやすいと考え、[手引き]で言及した。

35. カスタムメイド custom-made

「外来語」言い換え提案（第4回）

カスタムメイド	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	特注生産	
用例	客の要望を聞いてデザインする <u>特注生産</u> カスタムメイドの眼鏡枠製造も手掛ける。	
意味説明	客の好みに応じて、特別の仕様で作られること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・「カスタム」は、特注、あつらえ、「メイド」は作られることを意味する。 ・生産物を指す場合もあるが、その場合は「特注品」「あつらえ品」と言い換えることができる。 ・類義語に、注文を受けて作られることを意味する「オーダーメイド」（和製語）があり、「受注生産」と言い換えることができる。「カスタムメイド」と「オーダーメイド」は同じ意味で用いられる場合もある。 	
その他の言い換え語例	受注生産 特注品 あつらえ品	

【調査データ】

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。理解率と使用率の乖離も大きい。
- 公共媒体の頻度はきわめて低い（調査対象には使用例がない）。
- 新聞には、ほとんど使用例がないため、推移の傾向を見ることはできない。

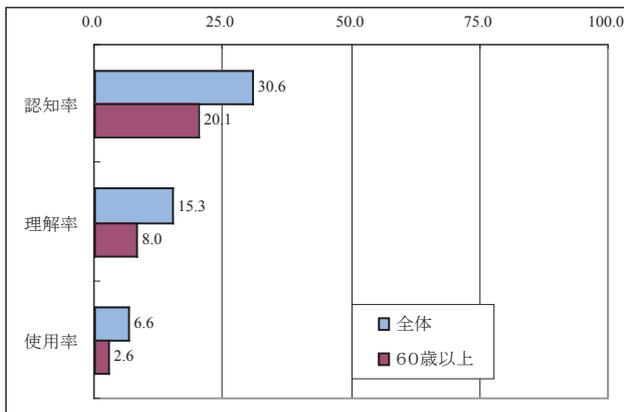


図1 定着度（全体・60歳以上）%

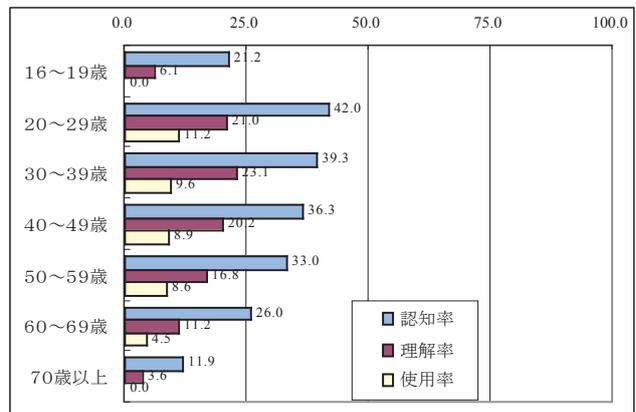


図2 定着度（年齢層別）%



図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

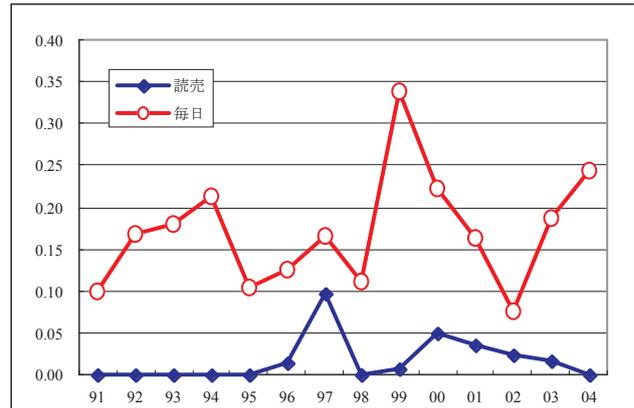


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

○既存の外来語「オーダーメイド」との関連が問題になる。「オーダーメイド」を「受注生産」とし、「カスタムメイド」を「特注生産」とし、その対応と区別が明確になるようにした。

36. ガバナンス governance

「外来語」言い換え提案 (第3回)

	全体	60歳以上
ガバナンス	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	統治	
用例	<p>もちろんG8にとって一番重要なことは「援助」ではなくアフリカの良き統治を前提とした「自立と自発的向上力」であることには間違いがない。</p> <p>企業統治 コーポレートガバナンスの再構築は、わが国の現状において、実際的にもますます重要な課題となっている。</p>	
意味説明	組織が自らをうまく統治すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・1990年代半ばから、よく使われるようになった語。社会、企業、国家、国際社会などについて、組織が自らをうまく統治することについて言われる。 ・2000年代には企業不祥事が相次いだこともあり、企業が自らの組織をうまく統治していく仕組みを指す、「コーポレートガバナンス」の形で用いられることが特に多く、単に「ガバナンス」という形でこれを指す場合も多い。 ・文脈によっては「統治能力」と言い換えることが適切になる場合がある。 	
その他の言い換え語例	企業統治 統治能力	
複合語例	<p>コーポレートガバナンス = 企業統治</p> <p>グッドガバナンス = 良い統治 良き統治 良好統治</p>	

【調査データ】

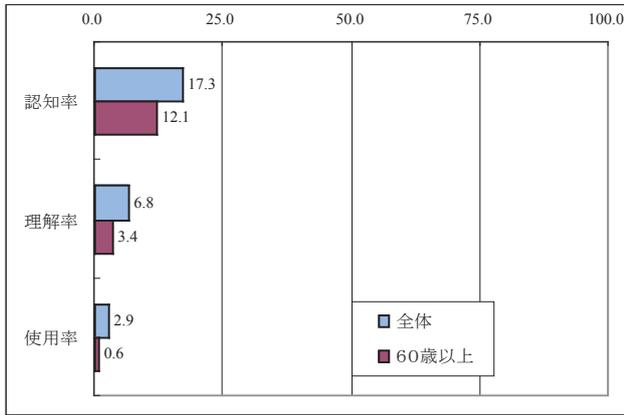


図1 定着度（全体・60歳以上）%

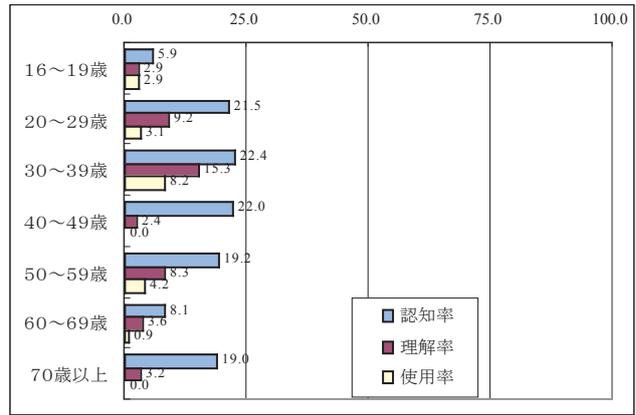


図2 定着度（年齢層別）%

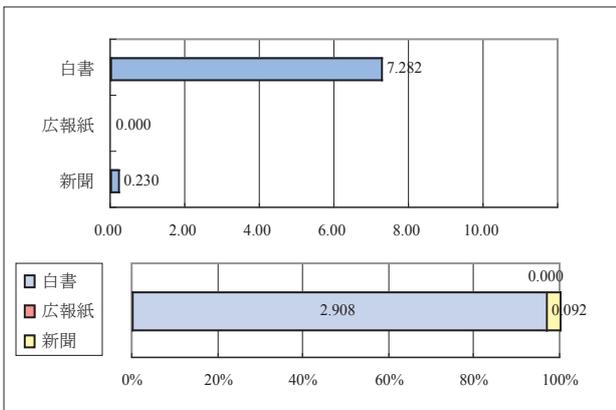


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

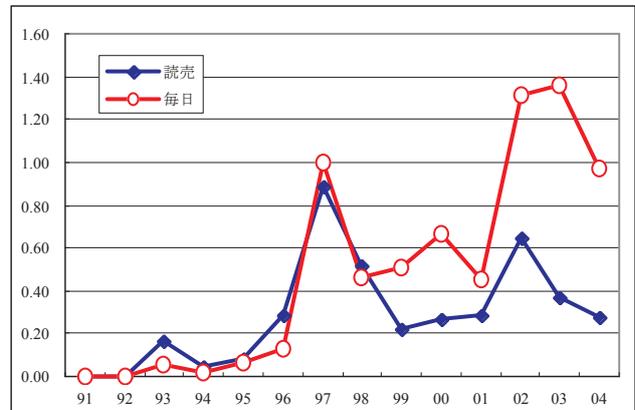


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移によると、1996年以後増加傾向にある。1997年と2002～2003年に特に頻度が高くなっている。

【背景事情】

- 新聞の頻度が1997年に特に高いのは、経団連が設けた「コーポレートガバナンスに関する特別委員会」のことが、度々報道されたことにより、2002～2003年に特に高いのは、企業不祥事が相次いだことをきっかけに「コーポレートガバナンス」が話題になったことによる。
- 2000年に出された、小渕恵三内閣による「21世紀日本の構想」懇談会の報告書は、「統治からガバナンス（協治）へ」として、従来の政府による統治でなく、協同して新しい公をつくる方向を提唱した。そこでは、「統治」と区別する概念として「ガバナンス」を設定し、「協治」と訳している。
- 「ガバナンス」の語は、「協治」の概念としては広まらず、企業の統治を表す概念として、「コーポレートガバナンス」の意味で、広まった。

【言い換えの論点】

- 「ガバナンス」は単なる「統治」ではなく、「協治」を表しているという意見も、いくつか寄せられた。しかし、「ガバナンス」で、「コーポレートガバナンス」の意味を表している現状に対応できる言い換え語が望まれると考え、「統治」「企業統治」を中心に、言い換え語を提示するのが適切だと考えた。